

SEKISUI

セキスイ全自動風呂電気温水器 取扱説明書



AUFシリーズ

時間帯別電灯／深夜電力（通電制御）切替式

形名 マイコン節電タイプ(防雨形)・高圧力型
AUF-37M1K・AUF-46M1K・AUF-56M1K

※ご使用の前にお買いあげいただきました温水器の形名をおたしかめください。

- *このたびはセキスイ電気温水器をお買いあげいただきまして、まことにありがとうございました。
- *この商品を安全に正しく使用していただくために、お使いになるまえにこの取扱説明書をよくお読みになり、十分に理解してください。
- *お読みになったあとは、いつも手元においてご使用ください。
- *施工説明書を、販売店または工事店から必ず受け取って保存してください。
- *保証書は必ずお受け取りください。
- *お客さまご自身では据付けないでください。安全や機能の確保ができません。

高圧力型電気温水器とは

平成10年12月に『労働安全衛生法施行令』が改正され、小型ボイラーの規制が見直されたことにより、今までの電気温水器・最高使用水圧が変更され100kPaから200kPaまでの使用が認められました。
これにより2階への給湯及びシャワーの使い勝手が向上され、より利便性の高い商品となりました。
ただし、一般家庭以外(事業所等)でご使用の際には改正に伴い諸条件が義務付けられています。詳しくは35から37ページをご覧ください。

時間帯別料金対応型とは

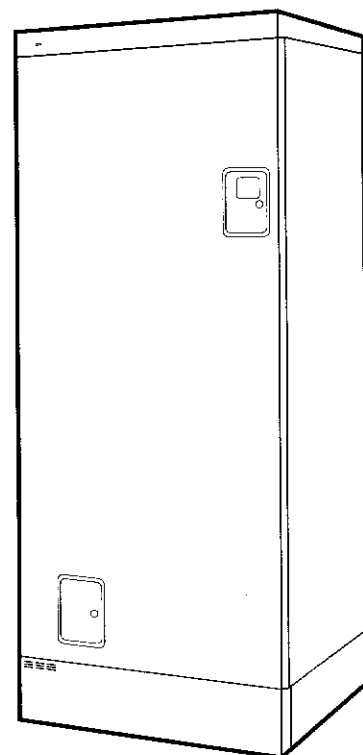
時間帯別料金制度に対応したもので、本体内に時計機能を内蔵しており、電気料金の安い夜間時間にお湯を沸かすようになっています。また、お湯がたりない場合には、昼間時間にもお湯を沸かす「沸増し」機能がついています。

時間帯別料金制度とは

電気料金を昼間時間と、夜間時間の2つの時間帯に分けて電気料金を算出する料金制度です。昼間時間の電気料金単価は、一般の従量電灯の料金単価に比べ割高になっていますが、夜間時間の電気料金単価は深夜電力料金と同水準で割安になっています。

割引き料金の適用について

この電気温水器は、通電制御による特別割引き料金の適用を受けられます。
適用に当っては、最寄りの電力会社に申請してください。なお、適用機種にはそれぞれ、右記のシールが貼り付けてあります。



もくじ

安全上のご注意	1
各部のなまえとはたらき	5
使いかた	9
凍結防止について	28
長期間お使いにならないとき	28
安全点検・お手入れのしかた	29
定期点検のおすすめ	31
エラーの表示と処理のしかた	32
エラー解除のしかた	33
このようなときには	34
事業者様へのご案内	35
仕様	38
保証とアフターサービス	39



安全上のご注意

ここに示した注意事項は、お使いになるかたや他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。次の内容(表示・図記号)をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

表示の説明

表 示	表示の意味
 警告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷(*1)を負うことが想定されること”を示します。
 注意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害(*2)を負うことが想定されるか、または物的損害(*3)の発生が想定されること”を示します。

*1：重傷とは、失明やけが、やけど(高温・低温)、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るもの、および治療に入院・長期の通院を要するものをさします。

*2：傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど・感電などをさします。

*3：物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

図記号の説明

図記号	図記号の意味
 禁止	○は禁止(してはいけないこと)を示します。 具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
 指示	●は指示する行為の強制(必ずすること)を示します。 具体的な指示内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
 注意	△は注意を示します。 具体的な注意内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。

■据付前の注意事項

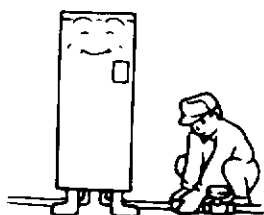
警告

据付・配管・電気工事は、必ずお買いあげの販売店または工事店に依頼すること

ご自分で据付工事をされますと、火災・感電・水漏れの原因になります。



専門業者



アース棒など、別売り部品もセキスイ品を使用すること

純正以外の部品を使うと、事故・故障の原因になります。



純正部品



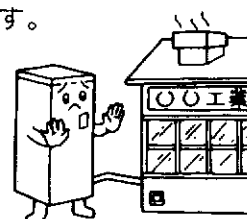
警告

業務用・改造後の使用はしないこと

業務用に使用しないでください。
事故・故障の原因となります。
安全点検を行ってください。



禁止



注意

水は水道法に規定された水質基準に適合する水を使用すること

適合しないと故障・水漏れの原因になります。



上水道



■据付後の確認事項

⚠ 警告

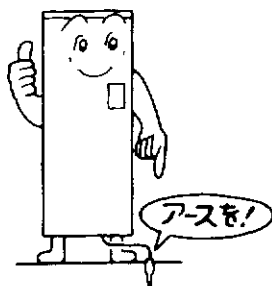
アース工事がされているか確認すること

故障や漏電のときに感電の原因になります。

アースの取り付けは販売店にご相談ください。



アース工事

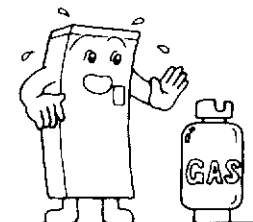


温水器の近くにガス類や引火物が置かれていないことを確認すること

発火の原因になります。



施工確認



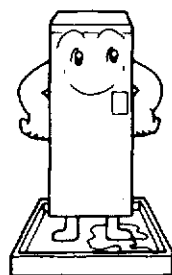
⚠ 注意

床面が防水処理・排水処理されているか確認すること

水漏れが起きた場合、大きな被害の原因になります。



施工確認

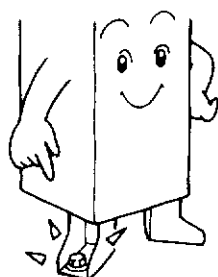


脚がアンカーボルトで固定してあるか確認すること

本体が倒れてけがをすることがあります。



施工確認



⚠ 注意

凍結防止対策を確認すること

配管が破損してやけどをすることがあります。



施工確認

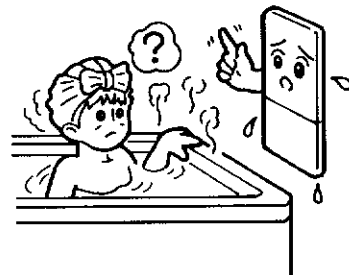


温水器・メインリモコンが浴室など湿気の多いところに取り付けられていないことを確認すること

火災・感電の原因になります



施工確認

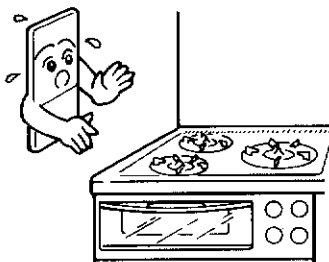


リモコンは、直射日光の当たるところ、屋外やガステーブルの上部など高温になるところに取付けられていないことを確認すること

変色、変形、火災の原因になります。



施工確認



■使用上の注意事項

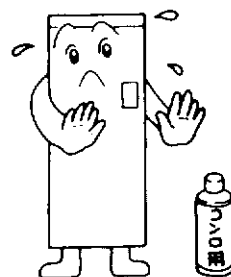
⚠ 警告

温水器の近くにガス類や引火物を置かないこと

発火の原因になります。



禁止



安全上のご注意 (つづき)

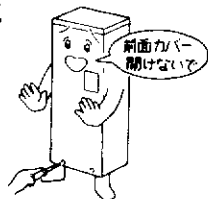
⚠ 警告

前面カバーは開けないこと

感電の原因になります。



禁止



給湯・排水時は熱湯が出るおそれがあります。やけどに注意すること

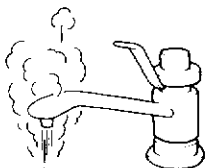
・給湯せんを開いた直後は水がでますが、すぐに熱湯に変わります。

・シャワーを使う場合、最初に熱いお湯がでることがあります。いきなり頭や体にかけず湯温を十分確認してから

行って下さい。



手をふれない



給湯時は給湯せん本体に手を触れないこと

やけどをすることがあります。

朝、最初に給湯せんを開くときに蒸気が吹き出ることがあります。給湯せんは少しずつ開いてください。



手をふれない



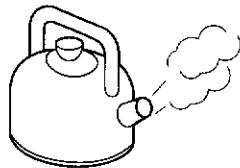
⚠ 注意

そのまま飲用しないこと

長期間のご使用によってタンク内に水あかがたまったり、配管材料の劣化等によって水質が変わることがあります。飲用される場合は、下記の点に注意し、必ず一度、ヤカンなどで沸騰させてからにしてください。

・必ず水質基準に適合した水を使用してください。

・熱いお湯が出てくるまでの水(配管内にたまっている水)は、雑用水としてお使いください。



固形物や変色、濁り、異臭があった場合には、飲用には使用せずに、直ちに点検の依頼を行ってください。



沸騰後飲用

⚠ 注意

電源ボックスカバーは閉じておくこと

ショート・感電の原因になります。ぬれた手でさわらないでください。点検・操作の後には必ずねじを締めてください。



確実に閉じる



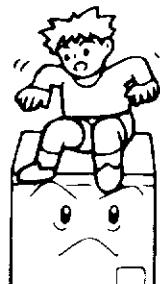
電気温水器の上に乗ったり、配管に力を加えないこと

本体が転倒したり、配管が破損してやけどなどの事故の原因になります。とくに、

幼児・子供に注意してください。



禁止



■点検・お手入れの注意事項

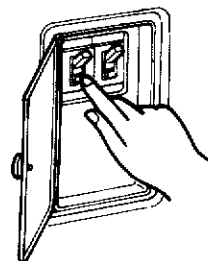
⚠ 警告

漏電遮断器の動作を確認すること

漏電遮断器が故障のまま使用すると、漏電のときに感電の原因になります。



動作点検



逃し弁の点検時には逃し弁排水管に手を触れないこと

やけどをすることがあります。



手をふれない



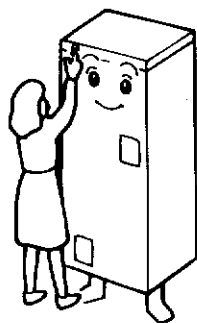
⚠ 注意

逃し弁を点検すること

点検しないとタンクや配管が破損したり逃し弁から水漏れしたりすることがあります。



動作点検

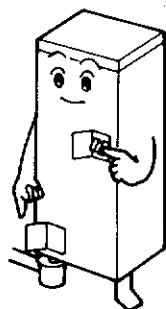


タンクの熱湯は直接排水しないこと

やけどをすることがあります。水で薄めてから流してください。



熱湯排水禁止



1ヶ月以上使用しないときは漏電遮断器を「切」にしてタンクの排水をすること

水質が変化することがあります。



水抜き



水漏れを点検すること

とくに集合住宅では、漏水が階下へ被害を与えます。日常点検してください。



漏水点検



■ 修理・譲渡等の注意

⚠ 警告

修理技術者以外の人には絶対に分解したり修理・改造は行わないこと

発火したり異常動作してけがをすることがあります。



分解禁止



⚠ 注意

このお使いになっている商品を他に売ったり、譲渡されるときには、新しく所有者となる方が安全な正しい使い方を知るために、この取扱説明書と別冊の施工説明書を商品本体の目立つところにテープ止めしてください



説明書添付



■ 異常時の注意

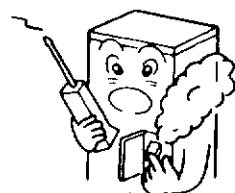
⚠ 警告

異常時(こげ臭い、過圧防止弁からの水漏れ等)は、漏電遮断器のレバーを下げて電源を「切」にして、お買いあげの販売店またはセキスイの営業所へ連絡すること

異常のまま使用されますと故障や感電、火災の原因になります。



電源を切る



各部のなまえとはたらき

- *電気温水器は深夜の間にお湯を沸かし、タンクに貯めておいて必要なときに利用するものです。
- *アースは、万一漏電した場合、電気を大地に逃がすため、電気温水器のアース端子と地中に埋設されたアース棒または、家屋に取り付けられたアース端子を

アース線で接続することにより構成されます。

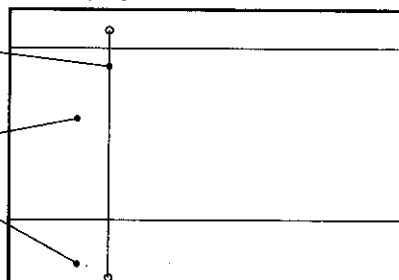
- *電気温水器本体に「安全上のご注意ラベル」が貼り付けてありますのでお読みいただき、確認してください。

外観および内部構造

別売部品および現場施工部品を組込んだイラストになっています。

※このイラストは370L・460Lで説明しています。

560Lタイプ



※これ以外は下図をご覧ください。

逃し弁ワイヤー

逃し弁の動作を確認するときに2～3回手前にかるく引きます。

逃し弁

高圧力型：170kPa

※逃し弁は消耗部品です。定期的に交換が必要です。交換時期は、水質によって異なりますので販売店にご相談ください。

タンク

ヒーター

過圧防止弁排水ホース

高圧力型は圧力センサーが付いており異常時にはリモコンでお知らせし、タンク沸き上げを停止します。

排水点検扉

この中に排水せん、非常用取水コックが入っています。

給水

専用止水せん

排水せん

非常用取水コック（飲用はできません）

非常の際にはこのコックよりタンクの水を取り出して非常用水として利用します。利用のしかたは本体ラベルをご覧ください。

逃しワイヤー組立

前面カバー上

前面カバー

前面カバー

電源ボックスカバー

この中に漏電遮断器が2個入っています。560Lは漏電遮断器が3個入っています。

減圧弁

高圧力型：150kPa

※減圧弁は消耗部品です。定期的に交換が必要です。交換時期は水質によって異なりますので販売店にご相談ください。

安全上のご注意ラベル

簡易ホッパー

電動三方弁

保温ヒーター

循環ポンプ

ポンプドレン栓

循環口（浴槽往き）

循環口（浴槽戻り）

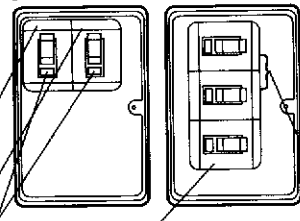
電源ボックスカバー内部

タンク沸上用漏電遮断器

ふろ用・制御用漏電遮断器

テストボタン

370L・460L 560L



タンク沸上用
漏電遮断器

ふろ用・制御用漏電遮断器

安全上のご注意ラベルについて

特に重要と考えられる事項について「安全上のご注意ラベル」に記載してあります。

警告

この製品を安全に正しく使用していただくために、お使いになる前に付属の「取扱説明書」をよくお読みください。十分に理解してください。

雷電のおそれあり

- ・雷雨時には電源プラグを抜くこと。
- ・電源ボックスカバーは閉めておくこと。
- ・アース工事が完了しているか、確認すること。
- ・漏電遮断器の動作確認をすること。

火災のおそれあり

- ・湯水の量が多すぎると火災の原因となる場合があります。
- ・湯水の量が多すぎると火災の原因となる場合があります。

やけどのおそれあり

- ・お湯を使う前に温度を確認すること。
- ・湯水は沸騰させないでください。
- ・湯水は沸騰させないでください。
- ・湯水は沸騰させないでください。

感電・火災のおそれあり

- ・湯水は沸騰させないでください。
- ・湯水は沸騰させないでください。
- ・湯水は沸騰させないでください。

感電・火災のおそれあり

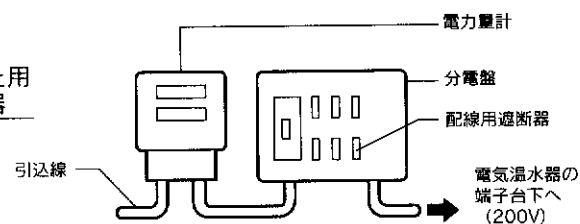
- ・湯水は沸騰させないでください。
- ・湯水は沸騰させないでください。
- ・湯水は沸騰させないでください。

お願い

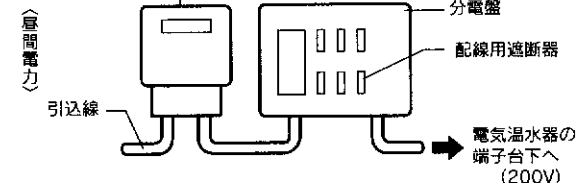
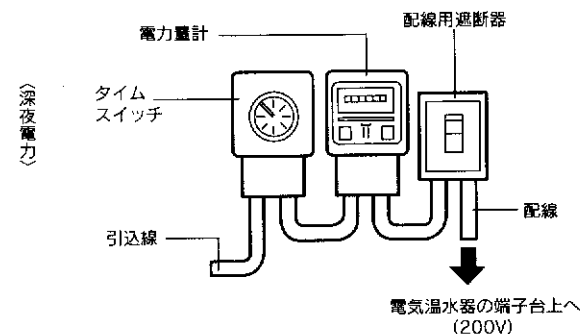
本体のラベルが剥がれてなくなったり、文字が消えて読めなくなった場合には、ラベルを販売店から購入し、元の位置に貼ってください。

標準引込み配線

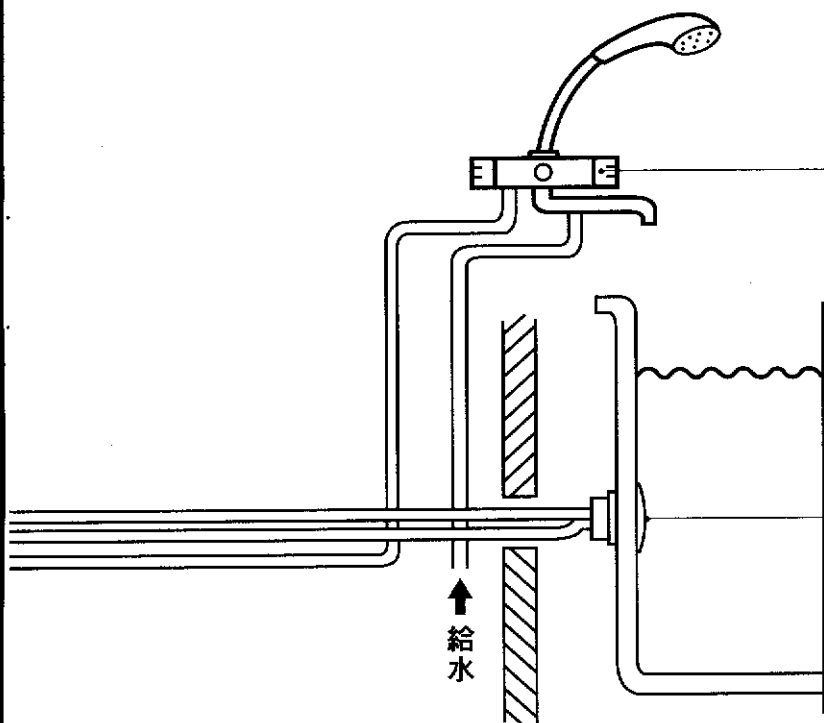
●時間帯別電灯のとき



●深夜電力のとき



水せんは湯水混合水せんを使用することをお勧めします。特に浴室ではサーモスタット付混合水せん等の使用をお勧めします。



サーモスタット付混合水せん

循環金具

各部のなまえとはたらき (つづき)

メインリモコン

- イラストはフタが開いた状態です。
- 液晶の表示は全表示している状態です。

優先表示

メインリモコンが優先のときに表示します。

沸き上げ中表示

タンクのヒーターに通電が開始されると表示します。

電源表示

制御電源が入ると表示します。

デジタル表示

給湯温度・タンク内湯温を表示します。

給湯表示

給湯温度が表示されていることを示します。

高温表示

給湯温度が高温であることを示します。

湯温表示

タンク内湯温を表示していることを示します。

残湯量表示

タンク内の残り湯量を4段階で表示します。
(→12ページ)

湯温設定表示

タンク内の沸き上げ設定温度を表示します。

「沸上げ停止」ボタン

タンクの沸き上げを停止する日数を設定するのに使います。
(→14ページ)

「湯温切替」ボタン

タンク内の沸き上げ温度を設定するのに使います。
(→11ページ)

「沸増し」ボタン

時間帯別電灯でご契約時、昼間の電気でタンクの沸増しを行うときに使います。
(→13ページ)

「湯温表示」ボタン

タンク内に残っている湯の温度を確認するときに使います。
(→12ページ)

湯はり予約表示

湯はり予約がされているときに表示します。

湯切れ表示

タンク内の残り湯量が60L未満になると表示します。
また、同時にブザー音でもお知らせします。

エラー表示

エラーが発生した時に表示します。
(→32ページ)

停止日数

温水器の沸き上げの停止している時に表示します。
(→14ページ)

デジタル表示

現在時刻・沸き上げ停止日数・湯はり予約時間・エラーコードを表示します。

電力制度表示

加入された電力制度を表示します。

沸増し設定表示

時間帯別電灯で契約時「沸増し」設定をしたときに表示します。
(→13ページ)

音声スピーカー

ここから音声案内がでます。

ふろ自動ランプ

ふろ自動運転中は点灯します。
「お好み」設定中は点滅します。

「ふろ自動」ボタン

ふろ自動運転を動作・停止します。
(→17ページ)

給湯ボタン

給湯温度を設定します。
(30℃～48℃、50℃、60℃)
(→21ページ)

「」ボタン

現在時刻・沸き上げ停止・湯はり予約の設定をするときに使います。

「音量」ボタン

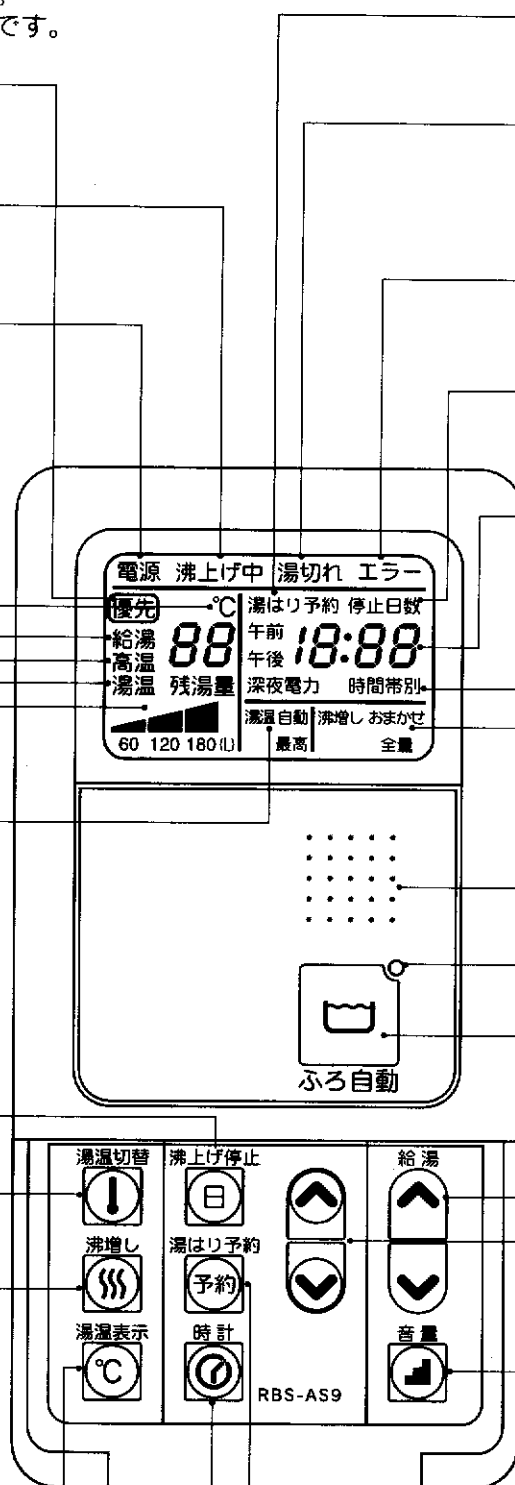
音声の大きさ、ブザーの音の大きさを調整します。
(→23ページ)

「湯はり予約」ボタン

自動湯はりの完了時間を設定します。
(→16ページ)

「時計」ボタン

現在時刻を合わせるときに使います。
(→10ページ)



浴室リモコン

- イラストはフタが開いた状態です。
- 液晶の表示は全表示している状態です。

エラー表示

エラーが発生したときに表示します。
([32ページ](#))

湯はり表示

湯はり温度を表示します。

デジタル表示

現在時刻・エラーコードを表示します。

高温差し湯中表示

高温差し湯中に表示します。

保温中表示

自動保温運転中に表示します。

湯はり水位表示

湯量を水位の目安として表示します。

お好み表示

湯はり量が「お好み」設定になっていると表示します。
([22ページ](#))

洗浄表示

洗浄運転中に表示します。

矢印表示

浴槽に湯が給湯されていると表示します。

優先表示

浴室リモコンが優先のときに表示します。

給湯表示

給湯温度が表示されていることを示します。

高温表示

給湯温度が高温であることを示します。

給湯温度表示

給湯温度を表示します。

シャワー回数表示

シャワーが何回使用できるのか目安を表示します。
(40L/1回)
([19ページ](#))

高温差し湯ランプ

高温差し湯中に点灯します。

「高温差し湯」ボタン

高温差し湯の入/切を行います。
([19ページ](#))

ふろ自動ランプ

ふろ自動運転中に点灯します。
「お好み」設定中は点滅します。

「ふろ自動」ボタン

ふろ自動運転を動作、停止します。
([17ページ](#))

「ふろ湯温」ボタン

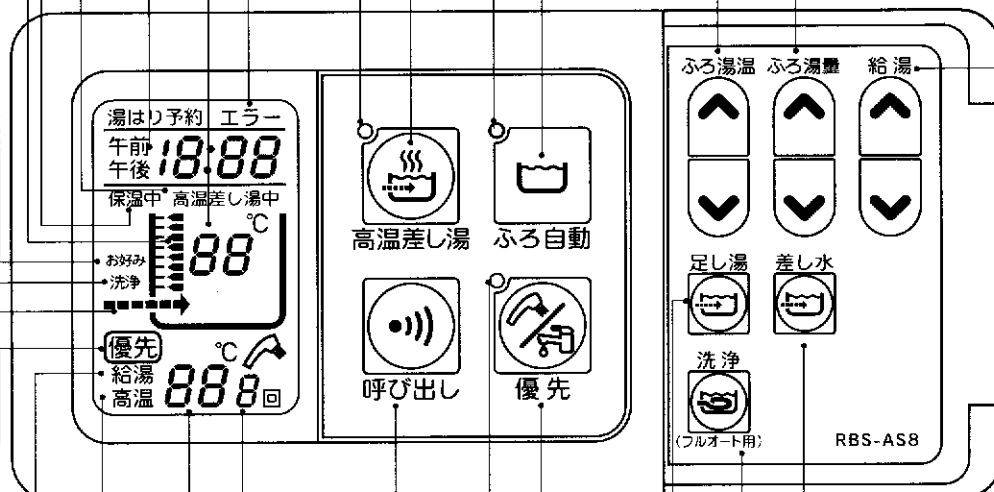
湯はりする湯温を設定します。
[35℃～48℃ (1℃刻み)]
([18ページ](#))

「ふろ湯量」ボタン

湯はりする水位を設定します。
(4 cm刻み、8段階)
([18ページ](#))

「給湯」ボタン

給湯温度を設定します。
30℃～48℃
50℃、60℃
([21ページ](#))



「差し水」ボタン

差し水 (約30℃) の入/切を行います。
([20ページ](#))

「洗浄」ボタン

ふろ循環配管の洗浄の入/切を行います。

「足し湯」ボタン

足し湯の入/切を行います。
([20ページ](#))

「優先」ボタン

リモコンの優先を設定します。

「優先」ランプ

浴室リモコンが優先のとき点灯し、給湯温度が設定できます。

「呼び出し」ボタン

押すとメインリモコンでブザーが約10秒間鳴ります。
([23ページ](#))

各部のなまえとはたらき

使いかた

⚠ 警告

温水器の近くにガス類や引火物を置かないこと

発火の原因になります。



禁止

タンクが満水になっていることを確認してから通電すること

- ・満水にしないで通電すると負圧によりタンクが破損し、やけどのおそれや水漏れの原因になります。
- ・水を入れないで通電するとヒーターがパンクしたり故障の原因となります。



満水確認

⚠ 注意

そのまま飲用しないこと

長期間のご使用によってタンク内に水あかがたまったり、配管材料の劣化等によって水質が変わることがあります。飲用される場合は、下記の点に注意し、必ず一度、ヤカンなどで沸騰させてからにしてください。

- ・必ず水質基準に適合した水を使用してください。
 - ・熱いお湯が出てくるまでの水(配管内にたまっている水)は、雑用水としてお使いください。
- 固形物や変色、濁り、異臭があった場合には、飲用には使用せずに、直ちに点検の依頼を行ってください。



沸騰後飲用

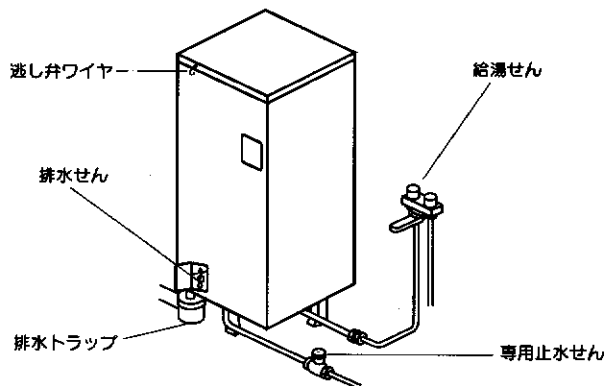
給水のしかた

最初は、タンクや配管内のゴミ・油などを洗い流すため、給水したら一度、全部排水し、再び給水してください。

1. 最初の給水のしかた

給湯せん、専用止水せんを開きます。

約20～30分で給湯せんから水が出てきます。

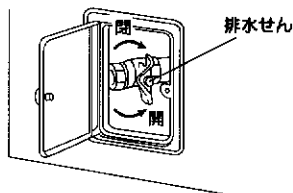


2. 排水のしかた

(1)専用止水せんを閉じます。

(2)給湯せん・排水せんを開きます。

(3)約40分～50分で水が抜けます。(排水できないときは、逃し弁ワイヤーを引いて逃し弁を開けてください。)



3. 再給水のしかた

(1)排水せんを閉じます。

(2)専用止水せんを開きます。

(3)給湯せんから水が出てきたら給湯せんを閉じます。

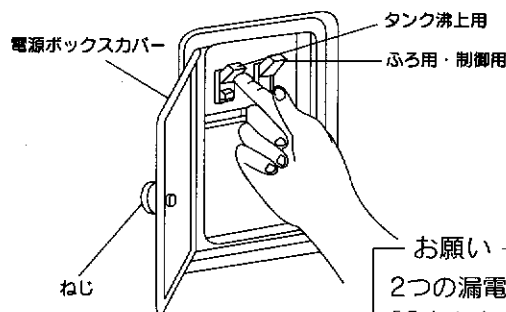
通電(沸上げ)のしかた

通電は、必ず給水をしてから行ってください。

1. 電源の入れかた

(1)電源ボックスカバーのねじをゆるめてカバーを開けます。

(2)漏電遮断器のレバーを2つとも必ず「入」にします。(560Lは3つです。)



お願い
2つの漏電遮断器を必ず「入」にしてください。(560Lは3つです。)

(3)電源ボックスカバーをとじ、ねじを確実に締めます。

2. 現在時刻を合わせます

メインリモコンを使用して現在時刻を合わせます。

(⇒10ページ)

3. 今夜からお湯を使いたいときは沸増し設定をします

(時間帯別電灯のとき)

メインリモコンの沸増しボタンを押します。

(⇒13ページ)

現在時刻の合わせかた

※メインリモコンで操作します。

- 時間帯別電灯料金制度で使用する場合には、必ず現在時刻の設定をしてください。設定をしないとお湯を沸かすことができません。
- 誤った時刻を設定すると、思わぬ電気料金がかかることがありますので、現在時刻を正しく合わせてください。
- 深夜電力料金制度で使用する場合には、時刻設定する必要はありませんが、設定しておくとも便利です。

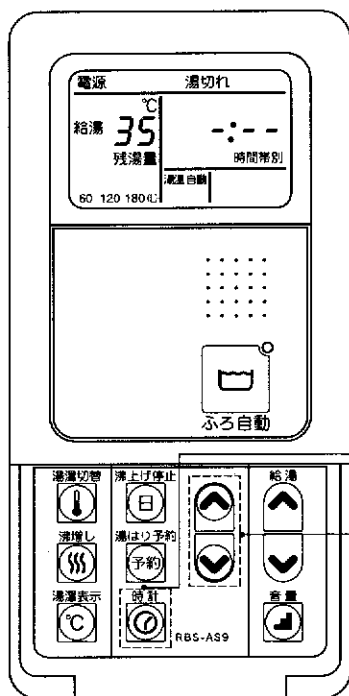
つぎの手順に従って現在時刻を合わせてください。

例) ここでは午後3時45分に合わせることで説明します。

設定手順

1. 漏電遮断器のレバーを2つとも「入」にします(560 Lは3つです)

(左図のように表示されます)



2. 『時計』 ボタンを押します

デジタル表示部に午前12時が表示されて、12が点滅します。



午前 12:00
時間帯別

3. 『▲▼』 ボタンを押して、午後3時に合わせます

「▲」 ボタンを押すと1時間ずつ数字が進みます。「▼」 ボタンを押すと1時間ずつ数字が戻ります。



午後 3:00
時間帯別

4. 『時計』 ボタンを押します

デジタル表示部の00が点滅します。



午後 3:00
時間帯別

5. 『▲▼』 ボタンを押して45分に合わせます。

「▲」 ボタンを押すと1分ずつ数字が進みます。「▼」 ボタンを押すと1分ずつ数字が戻ります。



午後 3:45
時間帯別

6. 『時計』 ボタンを押します

ボタンを押すと時刻が決定し、浴室リモコンにも時刻が表示されます。

7. 操作が終わったら必ずふたを閉めます。

メモ

現在時刻を設定されると、浴室リモコンにも自動的に現在時刻が表示されます。

お願い

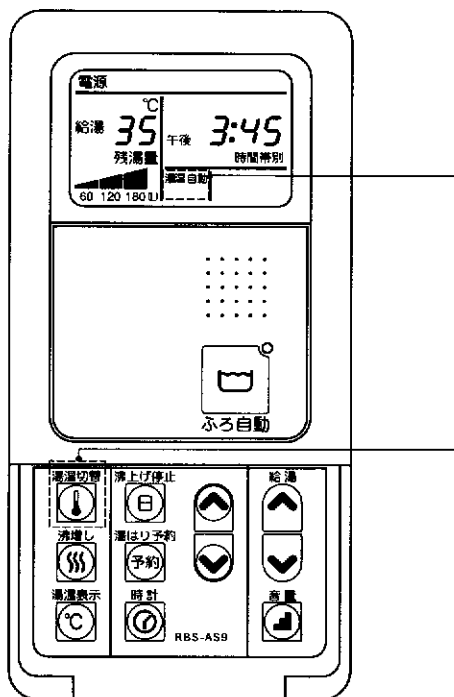
- ・ 2時間以上の停電があると、現在時刻がリセットされます。この時は、設定手順に従って現在時刻の設定を行ってください。

使
い
か
た

湯温切替のしかた

※メインリモコンで操作します。

- ご家庭のお湯の使用量に応じて、タンクの沸上げる温度を2段階に選べます。
- 冬場の水の温度が低いときや、沸上げ中に停電があった場合には設定温度より低い温度に沸き上がります。
- 本体の設定により初期値は「自動」になっています。



設定手順

1. 『湯温切替』ボタンを押します

ボタンを押すごとに表示が切り替わります。

湯温切替



湯温 自動
↑
湯温 最高

2. 操作が終わったら必ずふたを閉めます

●湯温調節のめやす

自動……約75℃～約90℃

(水の温度に応じて
沸き上げる温度が
変わります。)

最高……約90℃

(水の温度が15℃
未満のときは沸き
上がりません。)

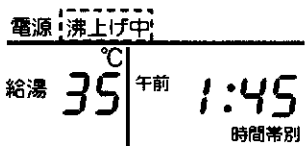
夜時間帯になり、タンク沸き上用のヒーターに通電されると『沸上げ中』が表示されます。

タンク沸上げは夜時間帯になってもすぐには通電されないことがあります。

マイコンが自動的に通電を

開始するのを遅らせている

ため故障ではありません。



メモ

●来客があるときは

前日に湯温切替ボタンを押して「最高」に切り替えておきます。(「自動」のとき)

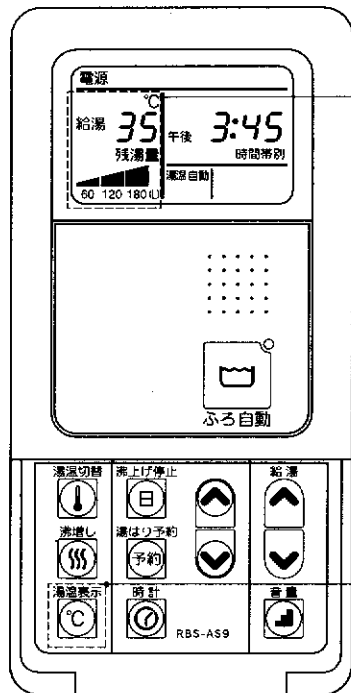


湯温表示のしかた

※メインリモコンで操作します。

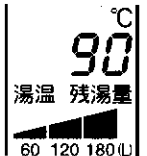
- タンク内に残っているお湯の温度を確認できます。ただし、給湯せんから出てくる温度とは異なります。
- 表示した後は、約10秒後に自動的に現在時刻に戻ります。

操作手順



1. 『湯温表示』ボタンを押します

ボタンを押すと約10秒間タンク内の温度が表示されます。



2. 操作が終わったら必ずふたを閉めます

残湯が少なくなり、タンク沸き上げ用のヒーターに通電されると湯と水が混合され急に消灯することがありますが、異常ではありません。

残湯量の見かた

※メインリモコンで表示しています。

- タンク内にお湯があると表示します。表示と表示に対するお湯の残り量は、下記の表の通りです。
- お湯が少なくなると音声とブザーの2段階でお知らせします。残湯が120L未満になると音声で「お湯が少なくなりました」残湯が60L未満になるとブザーでお知らせしますので必要に応じて沸増しを行ってください。(深夜電力料金制度でご使用のときは沸増しできません)

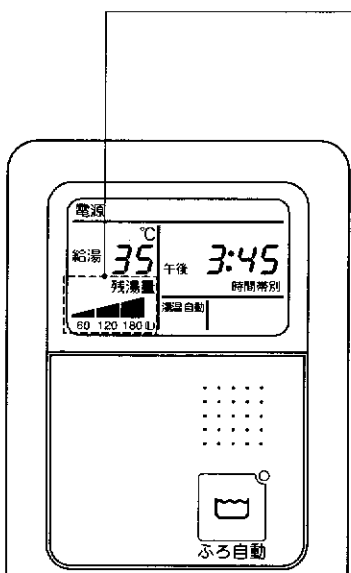


表 示	残 湯 量
 60 120 180(L)	180L以上
 60 120 180(L)	120L以上 180L未満
 60 120 180(L)	60L以上 120L未満
 60 120 180(L)	60L未満

夜9:00~朝9:00の間は音声を自動停止します。

[音声でお知らせ]

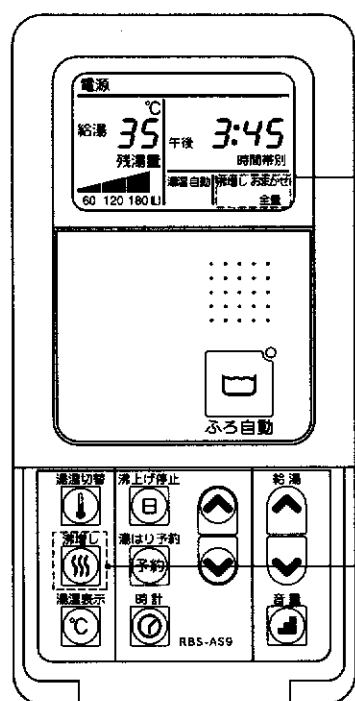
[ブザーでお知らせ]

沸増しのしかた

※メインリモコンで操作します。

- 『時間帯別電灯』で使用しているときに使用できます。「沸増し」は昼間の電気でお湯を沸かす機能です。
- 深夜電力料金制度でご使用の場合は『沸増し』はできません。
- ご家庭のお湯の使用量に応じて、タンクのお湯の『沸増し』が2段階で選べます。お湯の残り量をめやすに『沸増し』の設定をしてください。
- 来客などで、いつもよりたくさんのお湯が必要なときなどあらかじめ設定しておくとお湯が足りなくなるのを防ぎます。
- 『沸増し』をするとお湯をたっぷりと使えますが、昼間の電気を利用するので電気料金が割高になります。
- 現在時刻が設定されていないと『沸増し』はできません。

設定手順



1. 『沸増し』ボタンを押します

ボタンを押すごとに表示が切り替わり沸増しのパターンを変えます。

消灯 → おまかせ → 全量

●沸増しのめやす

おまかせ…毎日湯切れの心配をしな
いでたっぷりとお湯を使
いたい（毎日継続して沸
きあげます）

全 量…昼間お湯を使ってしまい
お湯が不足しそうなとき
など（設定した当日1回
だけ沸増しを行います）

2. 操作が終わったら必ずふたをしめ ます

解除の方法

「沸増し」ボタンを押して表示を消灯させ
ます。

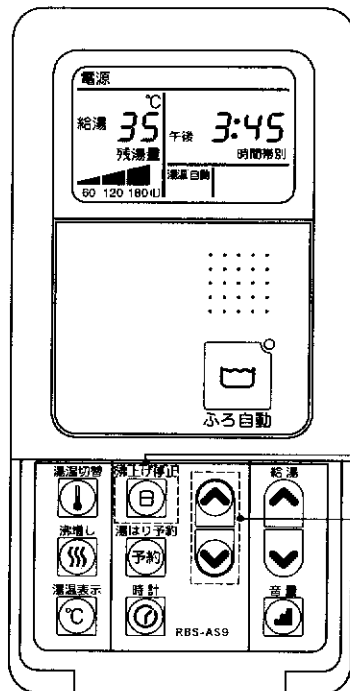
項目	こんなとき	毎日湯切れの心配をしな いでたっぷりとお湯 を使いたい	昼間お湯を使ってしまいお湯が不足しそうな とき
沸 増 し 設 定		おまかせ	全 量
沸増しのしかた			
沸 増 し の 条 件		朝7時から夕方5時の間でお湯を約60L使用 すると何回でも沸き増しを行う	設定したときから1回だけ沸き増しを行う
解 除 の 方 法		「沸増し」ボタンを押して沸き増しの表示を消灯させる	
備 考		夜の間に沸き上らなかったときに継続して約 2時間余分に沸き上げを継続する	

沸上げ停止のしかた

※メインリモコンで操作します。

- 旅行などで家を留守にする間のお湯を使用しないときなどは、タンクのお湯の沸き上げを停止することができます。
- 沸き上げ停止日数は、2日から14日まで設定することができます。

設定手順



1. 『沸上げ停止』ボタンを押します
ボタンを押すと2の表示が点滅します。



停止日数
2
時間帯別

- ## 2. 『 』ボタンを押します

ボタンを押すと停止日数予約の数字が増え（減り）ます。



停止日数
6
時間帯別

- ### 3. 『沸上げ停止』 ボタンを押します
- ボタンを押すと、数字が点滅から点灯
に変わり停止日数が決定します。

4. 操作が終わったら必ずふたをしめ
ます

停止日数の決めかた

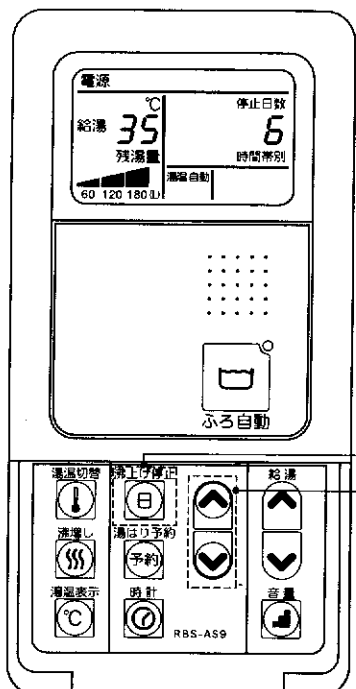
例) 2月1日に出発して、2月7日に帰宅する6泊7日の旅行の場合
6泊7日

出発日（2月1日）に停止日
数予約6を設定する。
1日経過ごとに日数が1日ず
つ減っていきます。

●沸き上げ停止の解除のしかた

・沸き上げ停止日数は、次の手順で解除してください。

手順



1. 『沸上げ停止』ボタンを押します
停止日数が点滅します



停止日数
- 6 -
時間帯別

2. 「 
- ボタンを押す

ボタンを押して0に
合わせます。

- ### 3. 『沸上げ停止』 ボタンを押します
- ボタンを押すと停止日数が解除されて
現在時刻が表示されます。



午後 3:45
時間帯別

その他の解除方法
「沸上げ停止」ボタンを2秒以上の長押しをします。
表示が0に戻り、15秒後には現在時刻が表示されます。

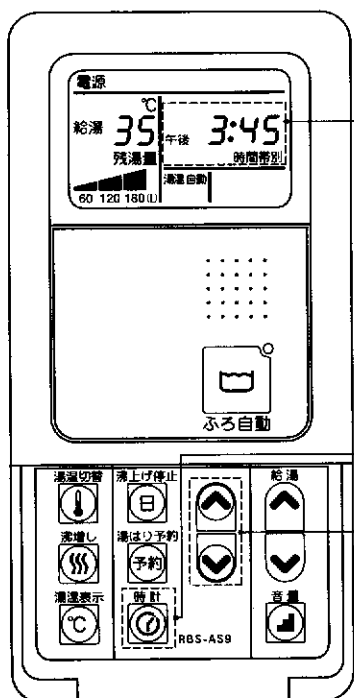
4. 操作が終わったら必ずふたをしめます

通電開始時刻の設定のしかた

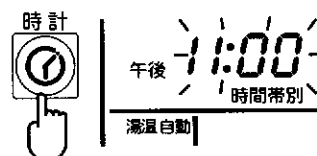
※メインリモコンで操作します。

- 時間帯別電灯契約に加入した場合に使用します。電力会社に取り付けた電力計の夜間時間に合わせる時に使います。
- 設定できる時刻は、「午後9:00」から「午前1:00」までです。
- 本体の設定により初期値は「午後11:00」になっています。
- 夜間時間に合せないと使用すると電気代が高くなります。

設定手順

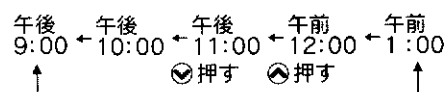


1. 『』 ボタンを2秒以上押します
ボタンを押すとデジタル表示部に「午後11:00」を点滅表示します。



※約10秒間操作しないと現在時刻に戻ります。

2. 『 』 ボタンを押して、通電開始時刻を合わせます
時刻ボタンを押すごとに開始時刻が1時間おきに変化します。



3. 『』 ボタンを押します
ボタンを押すと表示が点滅から点灯に変わり、設定した時刻を約5秒間表示したのちに現在時刻に切替ります。
※設定内容を確認したい場合には「1」の操作行います。このとき表示は約10秒で現在時刻に戻ります。

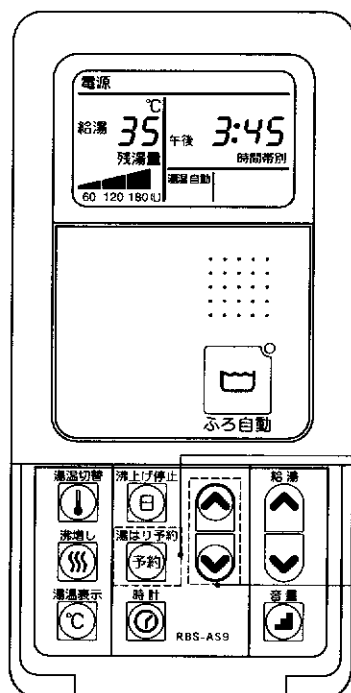
湯はり予約のしかた

※メインリモコンで操作します。

- 湯はり予約を設定すると、予約した時刻にお風呂にはいれるよう、自動的に湯はりを行います。
- 一回予約設定すると、設定時刻は記憶されますので、同じ時刻に予約するとき時刻を再設定する必要はありません。

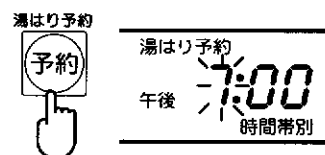
設定手順

(例) ここでは午後5時40分に合わせることで説明します。



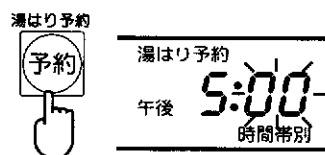
1. 『湯はり予約』 ボタンを押します

「湯はり予約」表示が点灯し、初めて設定する場合は「午後7:00」、2回目以降の場合は前回設定した時刻が表示され、「時(初回設定は7)」が点滅します。



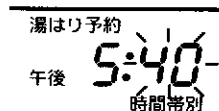
2. 『▲▼』 ボタンを押して午後5時に合わせて『湯はり予約』 ボタンを押します

「湯はり予約」ボタンを押すと「時」が決定し「分(初回設定は00)」が点滅します。



3. 『▲▼』 ボタンを押して40分に合わせます

湯はり予約時刻の設定は10分刻みです。

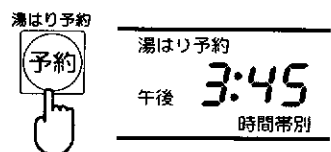


お願い

1. 「湯はり予約」はお風呂に入る時刻(湯はり完了時刻)の1時間以上前に設定してください。1時間以内に予約した場合は、予約した時刻に湯はりが完了しないことがあります。
2. 現在時刻が合っていないと、予約した時刻に湯はりが完了しません。
3. 「湯はり予約」は湯はりが開始すると自動的に解除されますので、使用することに予約を設定してください。
4. 「湯はり予約」中に「ふろ自動」ボタンを押すと、「湯はり予約」は解除され、自動湯はり(ふろ自動運転)を行います。
5. 湯はり予約使用時は浴槽を洗浄後、予め排水栓を閉めて浴槽に蓋をしておいてください。
6. 2時間以上の停電があると初期化されますので予約も解除されます。

4. 『湯はり予約』 ボタンを押します

「湯はり予約」表示、湯はり予約時刻が点灯し設定完了です。表示は10秒後に現在時刻に切り替わります。
※3分以内に「湯はり予約」ボタンを押さないと現在時刻表示に戻り「湯はり予約」は解除されます。



《湯はり予約・解除》

1. 『湯はり予約』 ボタンを3秒以上長押しします。

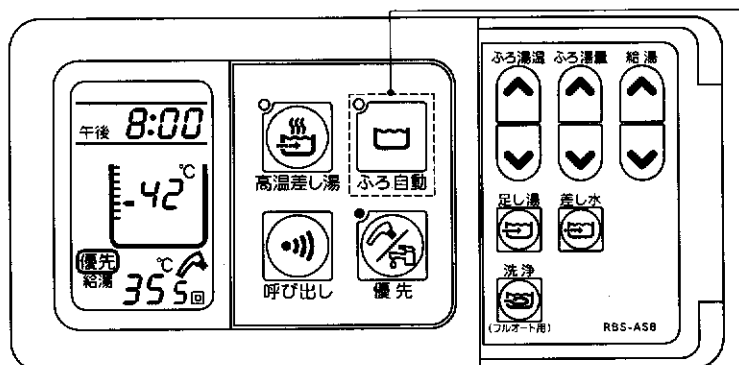
「湯はり予約」表示が消灯し、現在時刻表示に戻ります。

2. 操作が終わったら必ずふたを閉めます

湯はりのしかた (ふろ自動運転) ※浴室リモコン・メインリモコンで操作します。

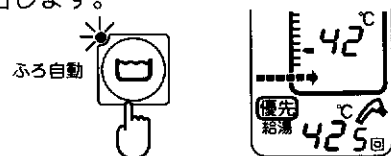
- 浴槽への湯はりは、浴室リモコンからでもメインリモコンからでもできます。
- ボタンを押すだけであらかじめ設定してある温度・水位 (湯量) で湯はりをします。
- 湯はりが終了すると、自動的に保温と足し湯をする自動運転を行います。自動運転継続時間は0～12時間、1時間おきに設定でき、初期設定は6時間です。
- 自動運転中は、ふろ自動ランプと表示部のバックライトが点灯します。
- 必ず浴槽の湯を排水してから湯はりしてください。正常に湯はりできなくなります。
- 特に初めての湯はりのとき、自動湯はり中にカラン・シャワー等から湯をたさないでください。正常に湯はりできなくなります。
- 設定温度は目安としてご使用ください。入浴する際には必ず浴槽の湯温を確認してください。適温で湯はりしていますが異常な動作により高温で湯はりし、ヤケドすることがあります。
- 必ず「ふろ自動運転」を解除してから浴槽の栓を抜いてください。正常に湯はりできなくなる場合があります。

設定手順



1. 『ふろ自動』 ボタンを押します

ボタンを押すとふろ自動ランプと表示部のバックライトが点灯して湯はりを開始します。



「湯はりをはじめます。」

2. 湯はりが完了すると、ブザー音でお知らせします。

「湯はりが終わりました。」

メモ

ふろ自動運転中の表示部のバックライトは点灯したままとなります。

メモ

- ・ 残湯が120 L以下のときには湯はりできません。(E: 22が発生します)
- ・ 湯はり中に120 L以下になると湯はりを停止し保温に移ります。

停電のとき

- ・ 5分以上の停電があると「ふろ自動運転」は解除されます。
- ・ 停電やリセットにより初期化された場合今までと同じ設定水位でも湯はり水位が変化することがありますが故障ではありません。

〈ふろ自動運転を停止するには〉

1. 『ふろ自動』のボタンを押します
2. ふろ自動ランプと表示部のバックライトが消灯し、ふろ自動運転を停止します

ふろ自動運転中の動作説明

ふろ自動運転中の浴槽の中の状態と浴室リモコンの表示の関係は、次のようになっています。

	1. 湯はり中	2. 湯はり完了	3. 保温中	4. 足し湯中
お風呂の状態				
浴室リモコンの表示				

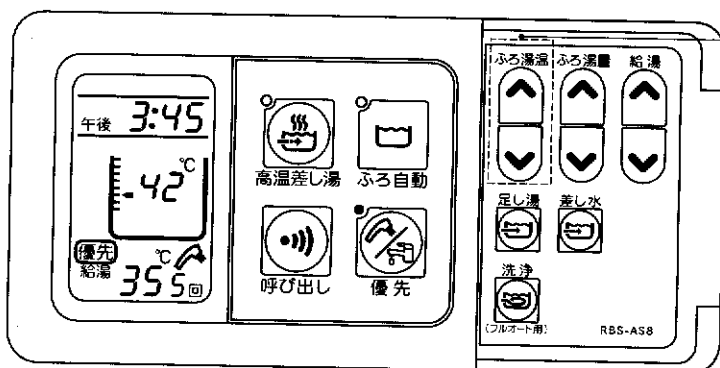
※自動足し湯中は、他の蛇口からも「ふろ湯温」と同じ温度のお湯が出湯されます。

ふろ湯温の設定のしかた

※浴室リモコンで操作します。

- ふろ湯温は、ふろ湯はり(ふろ自動運転)をするときに浴槽の湯はり温度・保温温度を設定するものです。
- 設定できる温度は、35℃から48℃までの14段階です。
- 本体の設定により初期値は「42℃」になっています。
- ふろ湯温の設定はふろの湯はり完了時の浴槽内の温度ではありません。浴槽内の温度は季節や配管の温度状態により異なります。リモコンの設定は目安としてお使いください。

設定手順



1. 『ふろ湯温』 ボタンを押します

⬆ ボタンを押すとふろ湯温は1℃ずつ高くなり ⬆ ボタンを押すと1℃ずつ低くなります。

2. 操作が終わったら必ずふたを閉めます

お願い

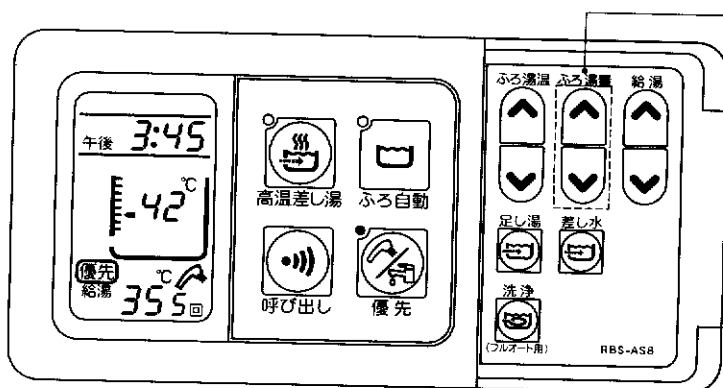
湯はり途中で湯温の変更を行なうと、設定した温度に湯はりできないことがあります。
(設定変更したときから変更した温度で湯はりをするからです。)

ふろ湯量の設定のしかた

※浴室リモコンで操作します。

- ふろ湯量は、ふろ湯はり(ふろ自動運転)をするときに浴槽の湯はり水位・自動足し湯水位を設定するものです。
- 1目盛り約4 cmで水位設定は8段階に切り替えられます。設定した湯はり量は実際の湯はり量と異なることがあります。湯量の目安として表示しています。
- 本体の設定により初期値は、下から3目盛り目(循環金具の中心から約20 cm上)になっています。
- 水位の矢印は目安として表示しています。

設定手順



1. 『ふろ湯量』 ボタンを押します

⬆ ボタンを押すとふろ湯量は1目盛りずつ増え ⬆ ボタンを押すと1目盛りずつ減ります。

2. 操作が終わったら必ずふたを閉めます

お願い

1. 湯はり途中で湯はり量(水位)の変更を行なうと、変更した水位まで湯はりします。ただし設定水位に達していると、湯はりを止めます。
2. 5分以上の停電があると『ふろ自動運転』は解除されます。また2時間以上停電が続くと、時計表示がリセットされ下から3目盛り目に設定されます。

高温差し湯のしかた

※浴室リモコンで操作します。

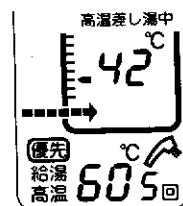
- 高温差し湯は、入浴中など湯温が下がったときに、短時間で湯温を上げたいときや、あつめのお湯にしたいときに使用します。
- 高温差し湯のボタンを押すと給湯温度表示が60℃または80℃（ボタンの6秒間長押し）に変更され循環金具より浴槽内温度を約1.5℃上昇させる分の熱いお湯がでます。
- 高温差し湯は、湯はり中は利用できません。
- 高温差し湯が終了すると湯はり温度表示は湯はり温度に戻ります。
- 高温差し湯中に他の水栓を開くと、高温差し湯を一旦停止して他の水栓で設定している湯をだします。給湯が終わると高温差し湯を再開します。他の水栓で使用中は、高温差し湯ランプが点滅します。
- タンク内の沸き上がり温度が低い場合には60℃または80℃の高温がでません。
- 残湯が60L未満のときは操作できません。(E:22が発生します。)

操作手順

1. 『高温差し湯』 ボタンを押します

ボタンを押すと循環金具より約60℃のお湯が出ます。浴槽の大きさによりですが1回の操作で約1.5℃湯温が高くなります。また、ボタンを6秒間長押しすると循環金具より約80℃のお湯がでます。

高温差し湯



お願い

1. 高温差し湯中やポンプ循環のときに熱いお湯（約60℃または80℃）が出てきます。やけどすることがありますので体に直接あてないようにしてください。
2. タンクの湯温が60℃以下の場合には、高温差し湯の温度は60℃以下になります。
3. メインリモコンにも高温差し湯中であることを温度を変更してお知らせします。

2. 高温差し湯を途中で停止するには

「高温差し湯」ボタンを押します。

※ボタンを押してもすぐには止まりません。適温を給湯して配管内に残った熱い湯を流します。

シャワー回数表示の見かた

※浴室リモコンで表示します。

- タンクに残っているお湯の量を検知してシャワーが何回使用できるかを表示します。
- 残湯の目安としてご使用ください。湯温42℃で40Lを1回として算出しています。(最大表示は5です)
- 季節により使用量が変化します。

使用中に表示が急激に変化することがあります。目安としてお使いください。



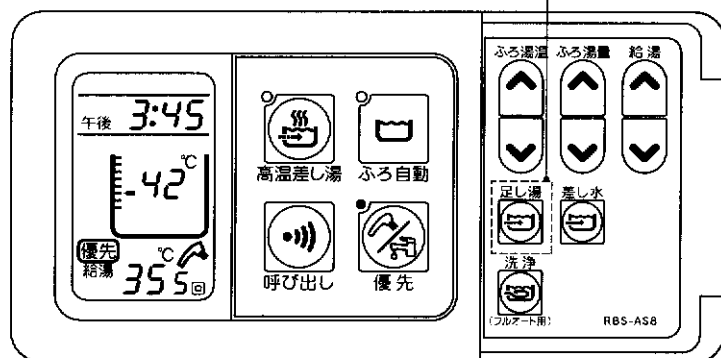
表示	シャワー回数
5	約5人以上
4	約4人
3	約3人
2	約2人
1	約1人
0	お湯がありません

足し湯のしかた

※浴室リモコンで操作します。

- 足し湯は、たっぷりのお風呂にしたいときに使用します。
- 足し湯ボタンを押すとふろ湯温設定温度のお湯が約20 L 循環金具より出ます。
- 足し湯は、湯はり中使用できません。
- 足し湯中は、他の蛇口からもふろ湯温と同じ温度の湯が出湯されます。
- 残湯が60 L 未満のときは操作できません。(E:22が発生します。)

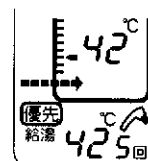
最初は配管内の熱いお湯が出ますのでヤケドに気をつけてください。



操作手順

1. 『足し湯』 ボタンを押します

ボタンを押すと循環金具より設定温度のお湯が約20 L 出ます。



2. 足し湯を途中で停止するには

『足し湯』 ボタンを押します。

3. 操作が終わったら必ずふたを閉めます

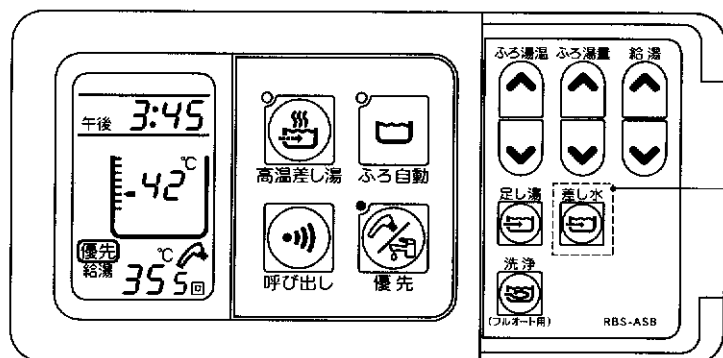
使
い
か
た

差し水のしかた

※浴室リモコンで操作します。

- 差し水は湯温が高く熱い時など湯温を下げたいときに使用します。
- 差し水のボタンを押すと給湯温度表示が「30℃」に変更され、循環金具より約30℃のお湯が1℃下げる分だけ出てきます。
- 差し水は、湯はり中使用できません。
- 差し水中は他の蛇口からも同じ温度の湯が出湯されます。

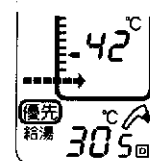
最初は配管内の熱いお湯が出ますのでヤケドに気をつけてください。



操作

1. 『差し水』 ボタンを押します

ボタンを押すと約30℃の湯が循環金具より1℃下げる分だけ出てきます。



2. 差し水を途中で停止するには

『差し水』 ボタンを押します。

3. 操作が終わったら必ずふたを閉めます

給湯温度の設定のしかた

※浴室リモコン・メインリモコンで操作します。

- 台所、洗面所、シャワーなどの給湯温度をまとめてお好みの温度に設定できます。
- 設定できる温度は30℃～48℃ (1℃刻み)、50℃、60℃です。
- 本体の設定により初期値は浴室リモコンに「優先」があり、「35℃」になっています。

操作手順

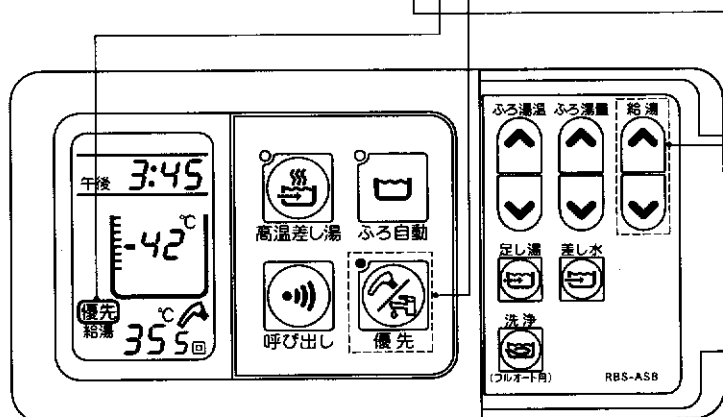
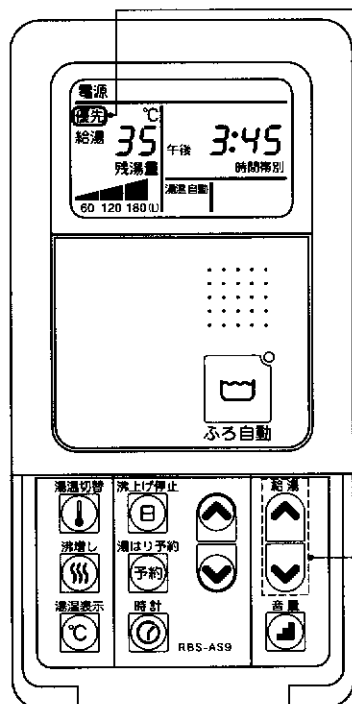
1. 『優先』を確認します

メインリモコンおよび浴室リモコンのどちらかに「優先」が表示されます。

- メインリモコンで給湯温度を設定する場合
メインリモコンに「優先」表示が点灯しているか確認してください。

表示が消えているときは浴室リモコンが「優先」となっていますので、浴室リモコンの「優先」ボタンを押して浴室リモコンの「優先」を解除してください。

- 浴室リモコンで給湯温度を設定する場合
浴室リモコンに「優先」表示が点灯しているか確認してください。表示が消えているときはメインリモコンが「優先」となっていますので、浴室リモコンの「優先」ボタンを押してメインリモコンの「優先」を解除してください。



2. 『給湯』ボタンを押します

⬆️ ボタンを押すと給湯温度は1℃ずつ高くなり⬆️ ボタンを押すと給湯温度は1℃ずつ低くなります。50℃、60℃を設定する時には48℃まで湯温を上げたのちに1秒程度まってから「⬆️」ボタンを2秒以上押すと「50℃」に変わります。さらに続けて押すと「60℃」に変わります。

※他の給湯栓で使用中「50℃」「60℃」に切替えることはできません。

3. 操作が終わったらふたを閉めてください

※『高温差し湯』中は給湯温度表示が「60℃」「80℃」を表示します。このとき水栓から湯を使用すると「浴室リモコン」に設定してある給湯温度に表示が切替ります。

「優先」の表示しているリモコンで設定してある給湯温度の湯が蛇口より出湯されます。

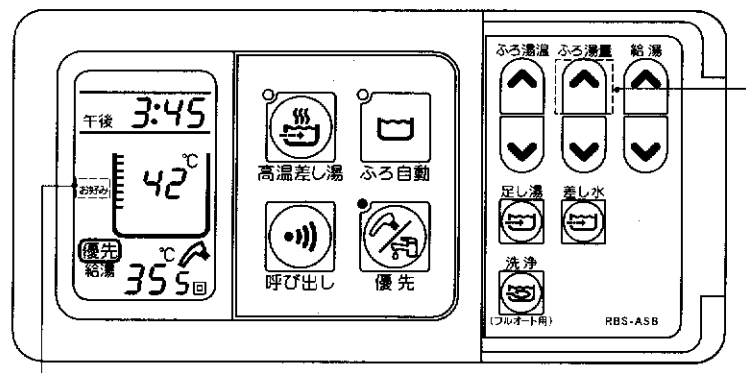
お好みの使いかた

※浴室リモコンで操作します。

- 『お好み』の設定で使用すると、お客様のお好きな湯量で湯はりします。
- 『お好み』を使用する場合には、お客様のお好みの水位をあらかじめ設定していただきます。
- 1度設定すれば、解除するか、停電等で初期リセットがかかるまでお客様が設定した水位で湯はりをします。
- 設定中に停電が発生すると設定中は解除され初期の状態にもどります。
- 湯量が20L以下の「お好み」の設定はできません。

操作手順

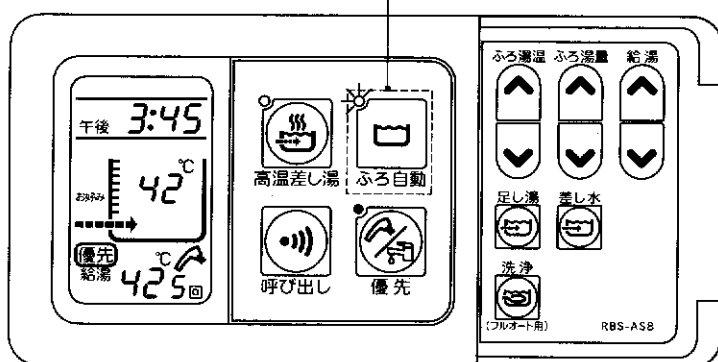
《お好み水位の設定》



1. 『ふろ湯量』ボタンの『⬆』を押し続けます

押し続けて湯はり水位表示を『最上位』まで変化させます。さらに2秒以上ボタンを押し続けます。

2. 湯はり水位表示が消灯し、『お好み』表示が点灯します



3. 『ふろ自動』ボタンを押します
ボタンを押すとふろ自動ランプが点滅し湯はりを開始します。この時、湯はり量を計算していますので、他のカランからお湯を入れないでください。お湯を入れると湯はり量が正確に検知できません。

また、設定してから約10秒以内に湯はりを始めないと『お好み』を自動解除します

4. お好みの水位になったら『ふろ自動』ボタンを押します

『ふろ自動』ボタンを押して停止すると、ふろ自動ランプは点灯に変わり運転になります。これで設定は完了です。湯はりを止めないとお湯はいつまでも出続けます。

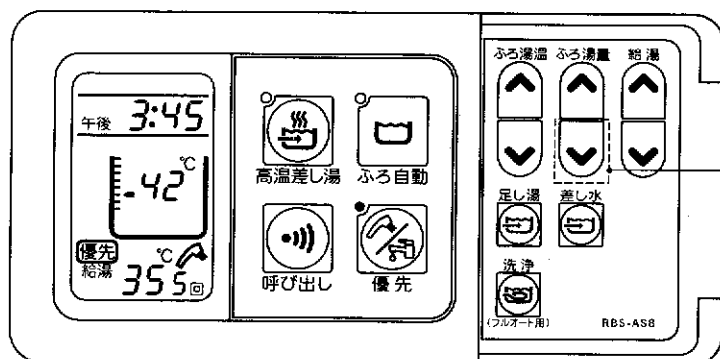
「お好み」の水位になったら「ふろ自動」ボタンを押して止めてください。止めないとあふれます。

《使いかた》

『湯はりのしかた』と同じように使用します。このページを参照してください

(→16ページ)

《お好み設定解除》



1. 『ふろ湯量』ボタンの『⬆』を2秒以上の長押しをします

押し続けると『お好み』表示が消灯し、下から3目盛り目の水位に設定されます。

2. 『ふろ湯量』ボタンの『⬆』『⬆』を押して適量に設定します

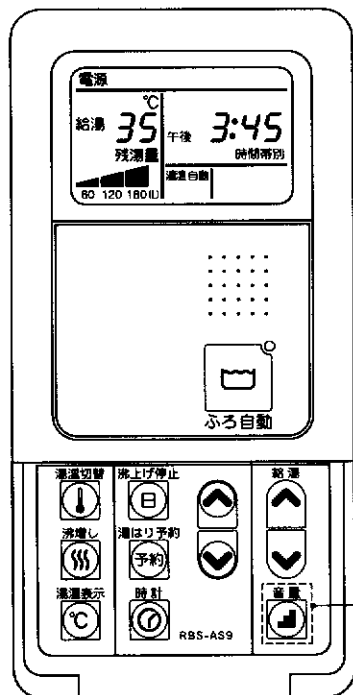
3. 操作が終わったら必ずふたを閉めます。

※ふろ自動運転中は、「お好み」設定解除はできません。

音量の調節のしかた

※メインリモコンで操作します。

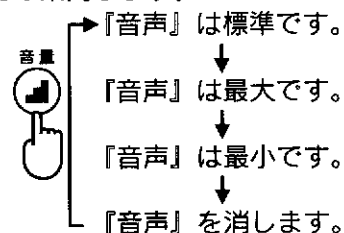
- メインリモコンの音声案内の音量を調節したいときに使用します。
- 音量の調節は、音声案内中以外であればいつでも行えます。



設定手順

1. 『音量』 ボタンを押します

ボタンを押すごとに声の大きさを音声でご案内します。



2. 操作が終わったら必ずふたを閉めます

異常を知らせる音声は消すことができません。ブザー音は消すことができませんが午後9:00～午前9:00の間は自動的に消音します。

呼び出しボタンの使いかた

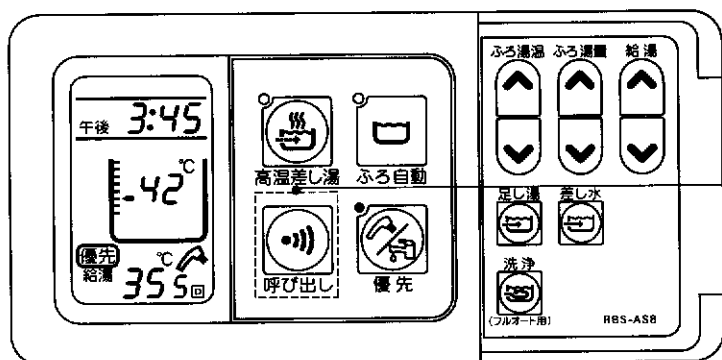
※浴室リモコンで操作します。

- 呼び出しブザーは、浴室リモコンから離れたところにあるメインリモコンのブザーを鳴らすことができます。
- ボタンを押すと、メインリモコンのブザーが約10秒間鳴ります。
- ご家庭内で呼び出し用としてご利用ください。

操作手順

1. 『呼び出し』 ボタンを押します

ボタンを押すとメインリモコンのブザーが約10秒間鳴ります。



呼び出し



《呼び出し音を停止するには》

- メインリモコンのいずれかのボタンを押します。

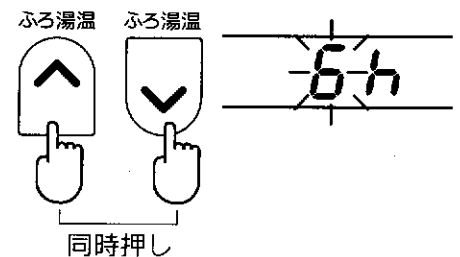
ふろ自動運転継続時間の設定のしかた ※浴室リモコンで操作します。

- ふろ自動運転の継続時間を0～12時間、1時間おきに設定できます。
- 本体の設定により初期値は「6時間」になっています。
- Eモードに設定すると、自動足し湯機能を停止し、自動保温運転のみとなります。(自動運転：6時間)
- ふろ自動運転継続時間を「0時間」に設定すると、湯はりした時点で停止します。(保温、足し湯動作はしません)

設定手順

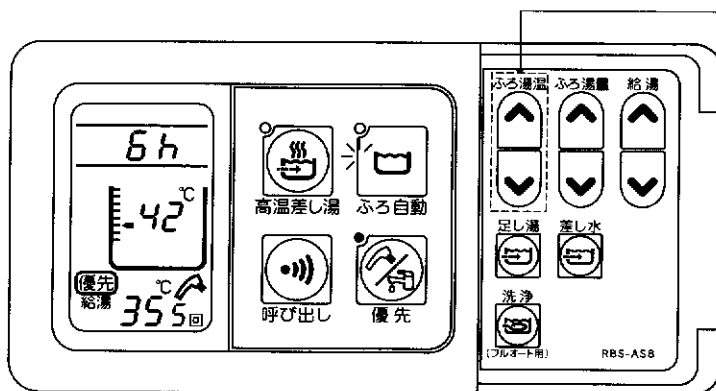
1. 『ふろ湯温』の『⬆️』ボタンと『⬆️』ボタンを同時に押します

初めて設定する場合は時計表示部に『6h』、2回目以降の場合は前回設定したふろ自動継続時間が表示され「時(初回設定は6)」が点滅します。



2. 『ふろ湯温』ボタンを押します

⬆️ ボタンを押すとふろ自動運転時間が1時間ずつ増え⬆️ ボタンを押すとふろ自動運転時間が1時間ずつ減ります。また⬆️ ボタンを押していくと12の次にEが表示されてEモードの選択ができます。



3. 『優先』ボタンを押します(2秒以上)
これで設定は完了です。



メモ

- 自動足し湯のみ停止するには「E」を選択
- 湯はりだけで停止するには「0」を選択

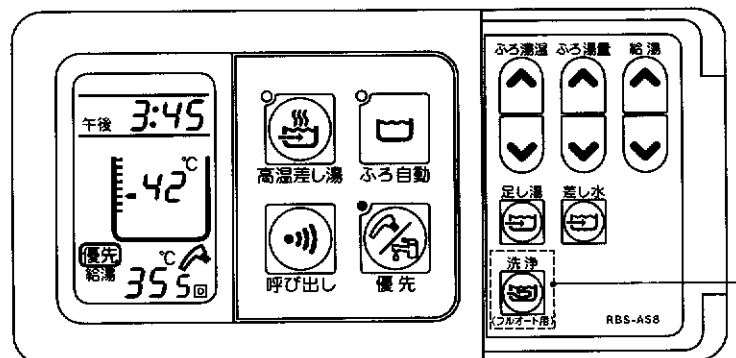
4. 操作が終わったら必ずふたを閉めます。

洗淨のしかた

※浴室リモコンで操作します。

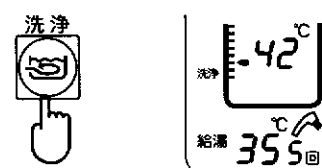
- 風呂循環配管の洗淨を行います。
- 洗淨を行うことで風呂循環配管への汚れの付着を軽減します。
- 洗淨は「風呂自動運転」を停止してから行ってください。
- ボタンひとつで、浴槽の状況にあった洗淨を行います。
- 快適にご使用いただくために週1～2度行うことをおすすめします。

操作手順



1. 『洗淨』 ボタンを押します

ボタンを押すと「洗淨」が表示され洗淨動作を開始します。



2. 洗淨を途中で止めるには

洗淨ボタンをもう一度押します。「洗淨」の表示が消灯して洗淨動作を停止します。

3. 操作が終わったら必ずふたを閉めます

洗淨動作は、お風呂の状態で異なります。

状態	お風呂にお湯があるとき	お風呂のお湯がある状態でボタンを押して、排水せんを抜いた	お風呂にお湯なしのとき
動作	ポンプが2分間運転した後に、約30℃の湯を往き戻り管に各7Lずつ流します。	ポンプ運転しているが循環金具まで排水されるとポンプが停止し、約30℃の湯を往き戻り管に各7Lずつ流します。	約30℃の湯を往き戻り管に各7Lずつ流します。

洗淨中は給湯温度表示に関わらず30℃の水が出ます。
洗淨は給湯していないときに行ってください。

非常用水の取りかた

- 非常用取水コックは、万一の災害による断水時にタンクのお湯（水）を生活用水として利用できるようにしたものです。
- 非常時以外は使用しないでください。

警告

非常用水は、熱湯が出るおそれがあります。やけどに注意すること

最初は水がでてきますが、熱湯がでてくることがあります。



手をふれない

非常用水の採水時はバルブ本体に手を触れないこと
本体が熱くなりやけどをすることがあります。



手をふれない

注意

飲用しないこと

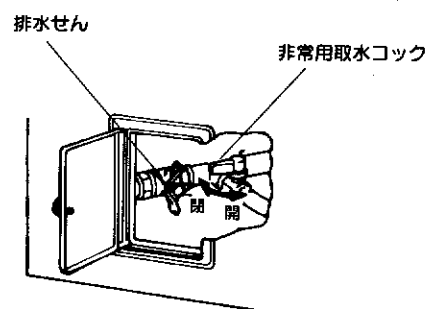
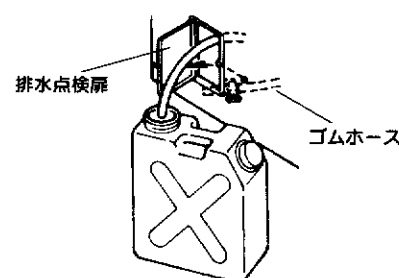
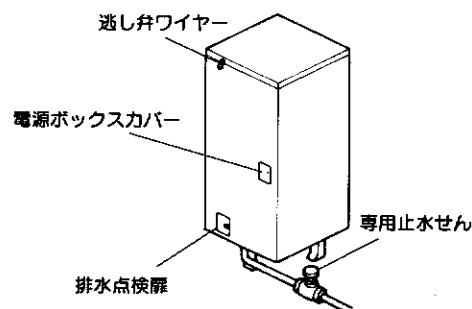
水質が変化した場合、下痢、腹痛など体をこわすことがあります。



飲用禁止

1. 非常用水の取りかた

- (1)電源ボックスカバーを開き漏電遮断器を「切」にします。
- (2)専用止水せんを開きます。
- (3)排水点検扉を開き、内部のゴムホースを引き出しポリタンク等に導きます。
- (4)非常用取水コックを「開」にします。（排水せんは開かないでください。）
- (5)逃し弁ワイヤーを引きます。
- (6)必要量の非常用水が取れたら逃し弁ワイヤーを離し、非常用取水コックを「閉」にします。
- (7)ゴムホースを元に戻し、先ほど開いた扉をすべて閉じます。



コックを開いてすぐは汚れた水が出ますのできれいになってからご使用ください。

2. 通常運転への戻しかた

- (1)専用止水せんを開きます。
- (2)給湯せん開き、3分以上連続して給湯せんから水が出るようになったら閉めます。
(給湯せんから水が出ても、配管内に空気がたまっている場合がありますので、必ず連続して水が出るようになるまで給水を続けてください。)
- (3)漏電遮断器を「入」にします。

お願い

一日に使用できるお湯の量は限られています。お湯は大切にお使いください。

●お湯は容器に受けて使ってください

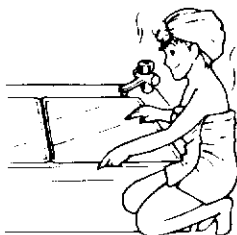
流し洗いは、お湯不足の原因になります。



●お風呂のふたは

浴槽には冷めやすいものもあります。

入浴後はふたをしてください。



●浴槽の「排水せん」の確認を忘れずに

- 湯はりするときは、必ず浴槽の「排水せん」をしてください

- 湯はりができず湯切れの原因となります。

- 残り湯は、必ず全部排水してください。

次に湯はりするときに、湯が溢れたり、湯温がぬるい原因となります。

●高温差し湯のとき

- 「高温差し湯」中に他の水栓を使用すると高温差し湯は一旦停止します。

(停止中は浴室リモコンの「高温差し湯」ランプ表示が点滅をしてお知らせします)

高温差し湯中はできるだけ他の水栓でお湯を使わないでください。

●来客があるときは

前日に湯温切替ボタンを押して「最高」に切り替えておきます。(「自動」のとき)



●入浴時間は

夜間の通電時間前にすませるようにしてください。

通電時間中にお湯をたくさん使用すると、翌日に湯量が不足します。



●湯はりはお湯が沸いてから

- 湯が沸き上がっていないと湯はりができません。

●浴槽の湯をはらうときは

- 必ず「ふろ自動運転」を解除してから浴槽の栓を抜いてください。

湯はりができなくなる場合があります。

●入浴剤・洗剤のご使用は

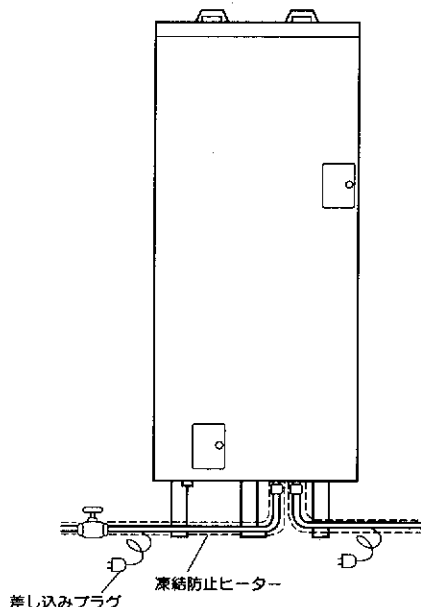
- 硫黄、酸、アルカリを含んだ入浴剤や洗剤は、機器が腐食したり故障する原因となるものがありますので、入浴剤、洗剤の注意文をご覧の上ご使用ください。

- 浴槽に沈殿物が残るような入浴剤は使用しないでください。

凍結防止について

1. 凍結防止ヒーターによる方法

- 気温がマイナス10℃以下になると、保温工事をしていても凍結のおそれがありますので施工説明書とおりの配管工事をしてください。
- 水が凍るような時期になりましたら、図の凍結防止ヒーターの差し込みプラグを100ボルトのコンセントに差し込んでください。暖くなりましたら、プラグをコンセントから抜いてください。

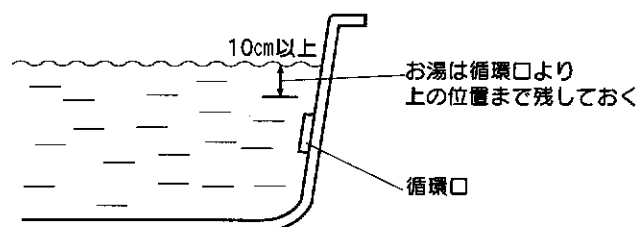


2. 浴槽にお湯を残す方法

外気温度が下がると、循環ポンプにより浴槽に残った湯を循環させて凍結を防止します。

お願い

- 浴槽に必ず湯を残してください。湯がないと凍結防止のための循環ができません。
- 循環路の凍結防止工事が確実にされている場合は、浴槽の湯を抜いても問題ありません。(製品内は凍結防止ヒーター付きです。)
- 電源は通電したままにしてください。通電していないと凍結防止のための循環ができません。

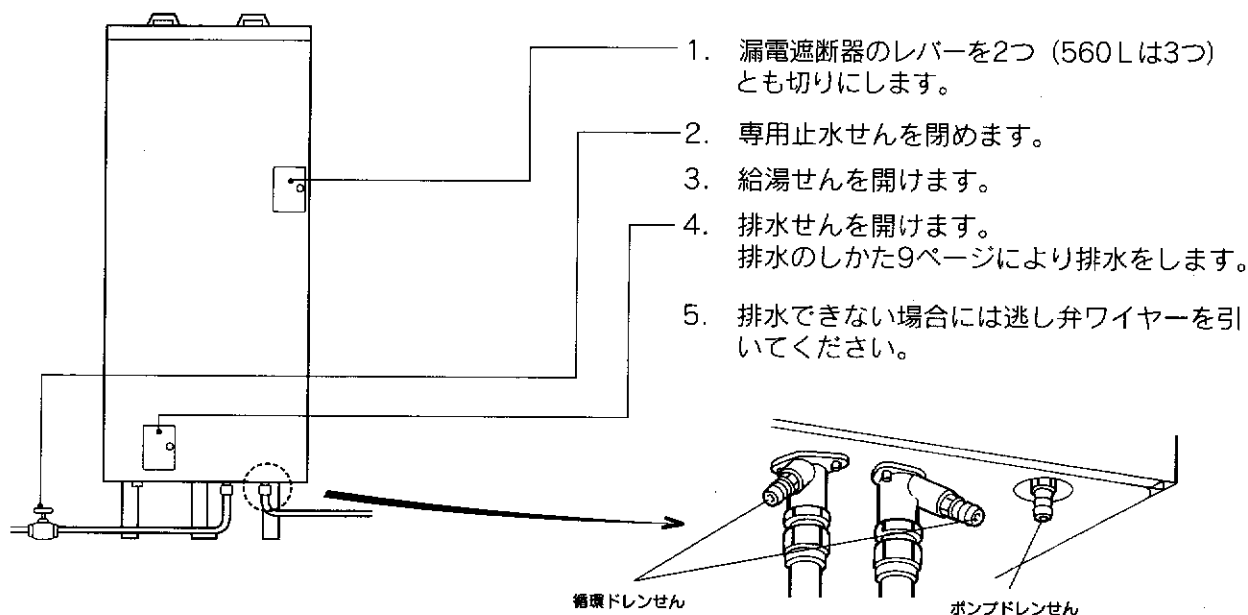


- 中間期(初冬・初春)でも外気温度により、循環ポンプが動作することがありますが異常ではありません。
- 浴槽にお湯を残していない場合でも、外気温度がさがると循環ポンプが動作し、循環金具から湯(水)が出るがありますが異常ではありません。

凍結防止に使用しないとき

長期間お使いにならないとき

- 1ヶ月以上お使いにならないときには、次の手順に従って排水を行ってください。
タンクの水は変質するおそれがあるので全部排水してください。



安全点検、お手入れのしかた

事故を防止するために下記の安全点検を必ず行ってください。

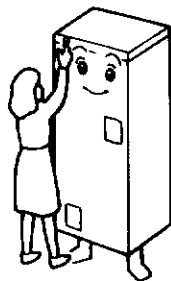
⚠ 注意

逃し弁を点検すること

点検しないとタンクや配管が破損したり逃し弁から水漏れしたりすることがあります。



動作点検

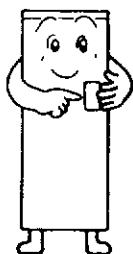


電源ボックスカバーは閉じておくこと

ショート・感電の原因になります。ぬれた手でさわらないでください。点検・操作の後には必ずねじを締めてください。



確実に閉じる



安全点検

1 漏電遮断器の動作確認を

⚠ 警告

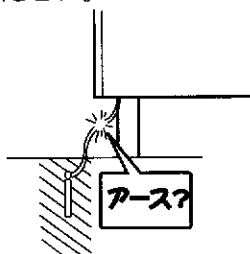
漏電遮断器の動作を確認すること

漏電遮断器が故障のまま使用すると、漏電のとき感電の原因になります。

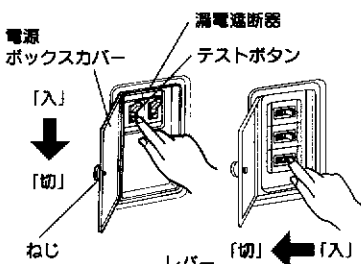
漏電遮断器は、万一漏電したとき自動的に電気を切るための安全装置です。

●年に2～3回は、漏電遮断器の動作確認を通电時間内に、つぎのように確認してください。

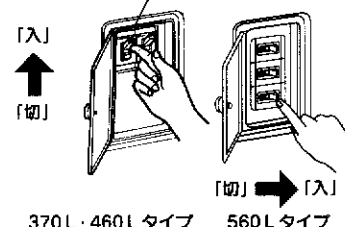
(1)アース線が途中で切れていないかどうか確認してください。



(2)電源ボックスカバーをあけて、テストボタンを押してください。漏電遮断器のレバーが「切」(OFF)になれば、正常です。



(3)テストのあとは、必ずレバーを「入」(ON)にもどし、電源ボックスカバーを閉じて確実にねじを締めてください。



370 L・460 L タイプ 560 L タイプ

2 逃し弁の動作確認を

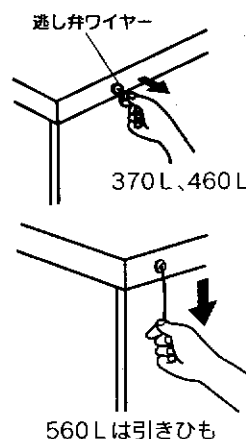
⚠ 警告

逃し弁点検時は、排水管に手を触れないこと

やけどをすることがあります。

年に2～3回は、逃し弁ワイヤーを2～3回引いて動作をチェックしてください。

●ワイヤーを引いたとき排水し、戻したとき排水が止まれば正常です。(排水が確認できないときは水の音で排水されたことを確認してください)



560 L は引きひも

- 逃し弁の弁部に水アカの付着や、異物のカミ込みがあると、逃し管より常にお湯が流れ出て、湯量不足の原因となります。
- 逃し弁は水からお湯になるときの膨張分を排水し、タンクを守る安全装置です。逃し弁が正常に動作しないと、タンクが変形し水漏れや故障の原因になります。

3 寒冷地では凍結防止を

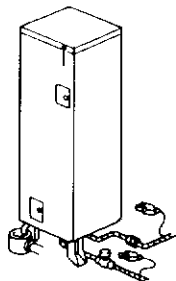
⚠ 注意

凍結防止対策を確認すること

配管が破損してやけどをすることがあります。

- 気温がマイナス10℃

以下になると、保温工事をしても凍結のおそれがありますので施工説明書に従い、保温工事をしてください。



- 水が凍るような時期になりましたら、図の凍結防止ヒーターの差し込みプラグを、100ボルトのコンセントに差し込んでください。また、凍結の心配のない時期になりましたら、差し込みプラグをコンセントから抜いてください。



4 水漏れの点検を

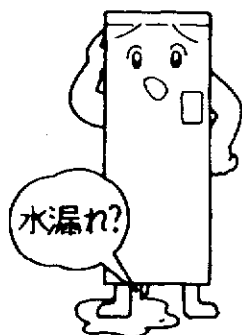
⚠ 注意

水漏れを点検のこと

特に集合住宅では、漏水が階下へ被害を与えます。日常確認してください。

- 電気温水器を設置

した床面に水が漏れていないか確認してください。



お手入れのしかた

1 ストレーナーの掃除

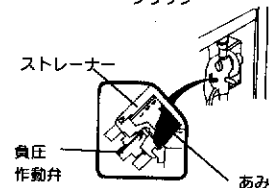
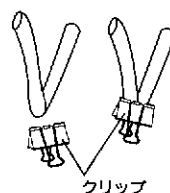
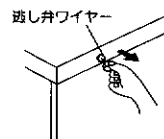
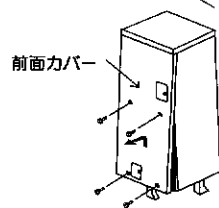
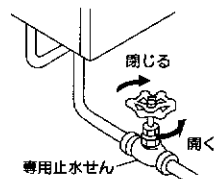
- 販売店に依頼して掃除を行ってください。

湯および水の出が悪くなったときは、減圧弁のストレーナーの掃除が必要です。

ストレーナーの掃除を行うときは次の手順に従って行ってください。手順を守らないとストレーナー部からタンクのお湯が出てきます。

《手順》

- (1)給湯温度60℃で約1分間、給湯します。
- (2)専用止水栓を閉じます。
- (3)給湯温度を30℃に設定します。
- (4)電気温水器用の配線用遮断器を「切」にします。
- (5)前面カバーのネジ4本をはずし、前面カバーを取りはずします。
- (6)逃し弁ワイヤーを約1分間引きタンク内の圧力を抜きます。
- (7)給湯口部に付いている負圧作動弁排水ホースを二つ折りにしてターンクリップ等で閉止します。
- (8)減圧弁のストレーナーをはずし、あみを掃除します。(水を流しながらブラシ等でよく洗います。)この時、配管内に残っている残水が出てきますのでヒーターやその周辺のコネクター等に湯(水)がかからないように注意してください。



2 お使いにならないとき

- 長期間お使いにならないとき

⚠ 注意

1か月以上使用しないときは漏電遮断器を「切」にしてタンクの排水をすること水質が変化することがあります。

安全点検
お手入れのしかた

安全点検、お手入れのしかた (つづき)

- タンク内のお湯を排水する場合には排水管が熱で変形しないように、タンク内のお湯を使いきった後、水になってから排水してください。
- 「排水のしかた」は9ページをご覧ください。
- 再びご使用になるときは、9ページの「給水のしかた」によりタンクが満水になったことを確かめてから、通電準備をしてください。
- 翌日、ご使用になるときは、給湯せんから最初配管内の空気と蒸気がでますので、やけどに注意してください。

3 タンク内の掃除を



注意

タンクの熱湯排水は直接しないこと

やけどをすることがあります。

使用しているうちに水あかや沈殿物がタンクの底にたまります。きれいなお湯をお使いいただくために、必ず年に2～3回はつぎの手順で排水口から水あかなどを出してください。

タンク内の掃除をするときは、一度湯はりをした後に行ってください。(タンク下部に給水されることにより排水口から熱湯が出ることを防ぎます。)

- (1)漏電遮断器のレバーを「切」にします。(図1)

- (2)専用止水せんを閉じます。(図2)

- (3)排水点検扉をあけ、排水せんを開きます。(図3)

- (4)逃し弁ワイヤーを約2分間引きます。(図4)

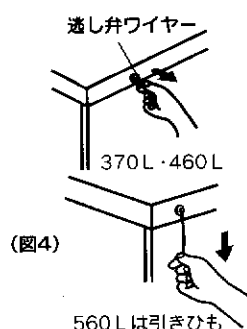
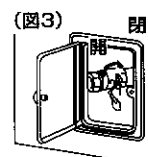
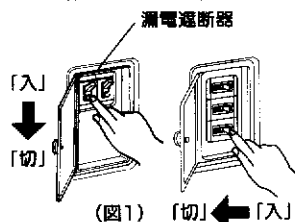
- (5)よごれた水がきれいな水にかわったら排水せんを閉じ、排水点検扉を閉めます。(図3)

※お湯が出てくる場合がありますので、ご注意ください。

- (6)排水が終了したら専用止水せんを開きます。(図2)

- (7)排水口に水が出てくるまで逃し弁ワイヤーを引きます。(見えないときは音で確認してください) (図4)

- (8)漏電遮断器のレバーを「入」にします。



4 断水、近くで水道工事が行われるとき

- 工事が行われる前に専用止水せんを閉じてください。
- 濁った水が減圧弁のストレーナーに目詰まりし湯量が減少したり、お湯が濁る原因になります。
- 解除されたら専用止水せんおよび給水せんを開いて、水がきれいになったのを確かめてから電気温水器を使用してください。

5 過圧防止弁について

- 過圧防止弁排水口より水(または湯)が漏れている場合は、配管システムまたは温水器に異常があります。漏電遮断器のレバーをさげて電源を「切」にし、専用止水せんを閉じてお使いになるのをやめてください。お買いあげの販売店に連絡をして修理を受けてください。



6 リモコンの掃除の仕方

リモコンの表面が汚れたときは水に濡らしたやわらかい布をかたく絞って、軽く拭き取ってください。

リモコン内部には電気部品が入っていますので、水をかけないようにしてください。

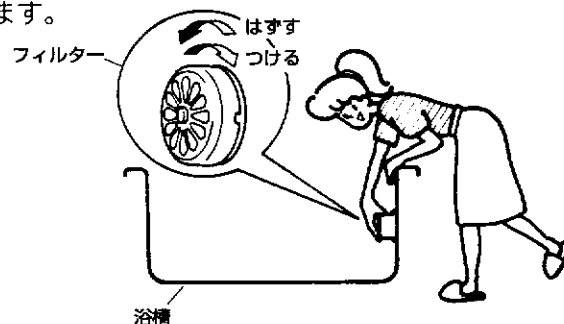
※洗剤およびシンナー・ベンジン等は使用しないでください。

7 循環金具の掃除の仕方

浴槽内のフィルターをはずし、1週間に1回程度掃除をしてください。

掃除後はフィルターを確実に取り付けてください。

フィルターをつけずに使用しますと、故障の原因となります。



定期点検のおすすめ

電気温水器を長期間安心してお使いいただくために、専門の技術者がお客様に代わって細かく定期点検、部品の交換をいたします。詳しくはお買いあげの販売店にお問い合わせください。

エラーの表示と処理のしかた

※メインリモコン・浴室リモコンの両方に表示されます。

- この電気温水器には異常時の自己診断機能があります。
- 現在時刻表示部に次の表示が出ているときは下の表に基づいて点検およびお買い上げ店に修理の依頼を行ってください。

故障でもお湯を沸かせる (○:できる、×:できない)

故障でもふろ自動できる (○:できる、×:できない)

エラー手動解除できる (○:できる、×:できない)

エラー自動解除する (○:できる、×:できない)

表 示	原 因	故障箇所・原因	タンク 沸上げ	ふ ろ 湯はり	エラー解除		対 処 方 法
					手動	自動	
E: 1	サーミスタ故障	水温湯温センサー	○	○	×	○	・センサーの確認 ・回路の断線開放確認 ・お買い上げ店に修理の依頼をしてください。
E: 2	"	残湯180Lセンサー	○	○	×	○	
E: 3	"	残湯120Lセンサー	○	○	×	○	
E: 4	"	残湯60Lセンサー	○	○	×	○	
E: 5	深夜電力24時間停電	温水器側の電源投入が24時間中1度もなかった。	○	○	○	○	・停電 ・タイムスイッチ不良 ・漏電遮断器 ・引込み配線の断線 ・PC板コネクタの確認
E: 6	深夜電力2時間以上停電	2時間以上の停電ありで沸上がらない	○	○	○	○	・タイムスイッチ ・漏電遮断器 ・長時間の停電
E: 9	交信異常	リモコンと交信せず	○	×	×	○	・本体基板不良
E: 19	圧力センサー不良 浴槽栓抜け	50分、または360L湯はりして圧力変化が検知できず	○	×	○	×	・浴槽栓確認 ・配管状態、循環金具確認 ・流量確認 ・圧力センサー不良
E: 20	浴槽栓抜け	ポンプ循環できず 保温用リミッタ動作	○	×	○	×	・浴槽栓確認 ・配管状態確認 ・フロースイッチ不良、向き確認 ・循環ポンプ不良、三方弁不良 ・保温用リミッタの確認
E: 22	湯切れ	タンク内残湯60L未滿	○	×	○	○	・タンク内の残湯確認
E: 23	湯残り	・浴槽に残り湯 ・フロースイッチ不良 (ONのまま)	○	×	○	×	・(設定-10℃)の残り湯あり ・フロースイッチ確認
E: 25	設定水位ならず	自動足し湯中100L足し湯しても設定水位にならない	○	×	○	×	・排水栓抜け ・圧力センサー不良 ・流量センサー不良
E: 27	湯はり完了せず	60分で湯はりできず	○	×	○	×	・専用止水せん確認 ・減圧弁ストレーナ確認 ・簡易ホッパー確認 ・水圧確認
E: 28	湯はり温度低い	給湯している温度が30℃以下で低い	○	×	○	×	・ミキシング不良 ・沸き上げ温度が低い ・センサー不良
E: 29	湯はり温度高い	給湯している温度が(設定+10℃)以上で高い	○	×	○	×	・ミキシング不良 ・センサー不良
E: Hc	タンク温度異常	タンク内温度が95℃以上	×	○	○	○	・水温、湯温センサーの不良 ・本体PC板の不良 ・本体リレー故障
E: HP	タンク圧力異常	タンク内圧力350kPa以上	×	○	○	×	・本体PC板の不良 ・逃し弁不良
E: HL	タンク水位異常	タンク満水でない	○	×	○	○	・専用止水栓の確認

エラーの表示と処理のしかた (つづき)

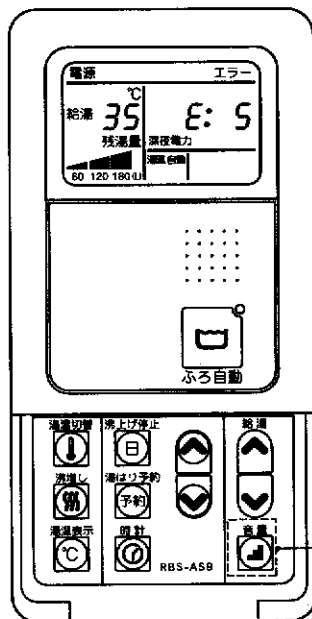
表 示	原 因	故障箇所・原因	タンク 沸上げ	ふ ろ 湯はり	エラー解除		対 処 方 法
					手動	自動	
H: 0	電動三方弁不良	三方弁の開閉口の位置 検知できず	○	×	○	×	・ 電動三方弁の確認 ・ ハーネスの断線・色確認
H: 1	流量センサー不良 簡易ホッパー不良	流量検知できず	○	○	○	×	・ 流量センサーの確認 ・ 給水電磁弁ONせず ・ ハーネス断線・短絡
H: 2	水位センサー不良	・ 圧力変化せず ・ 異常圧力検知	○	○	×	○	・ 水位センサー不良 ・ ハーネス断線・短絡
H: 3	給水電磁弁・流量センサー (簡易ホッパー)不良	給水電磁弁がONして いないのに流量検知	○	○	○	×	・ 流量センサー不良 ・ 給水電磁弁不良 (オープン)
H: 4	ふろサーミスタ不良	正常値検知せず	○	×	×	○	・ センサー確認 ・ ハーネス断線・短絡
H: 5	給湯サーミスタ不良	正常値検知せず	○	○	×	○	・ センサー確認 ・ ハーネス断線・短絡
H: 6	電動ミキシングバルブ 不良	正常値検知せず	○	×	○	×	・ 電動ミキシングバルブの確認 ・ ハーネスの色・断線確認

エラー解除のしかた

※エラーの解除は、メインリモコン・浴室リモコンの両方で行えます。

- リモコンの表示部にエラー表示した際には手順に従って解除してください。
- エラーには、解除できるものとできないものがあります。『エラーの表示と処理のしかた』をご覧ください。

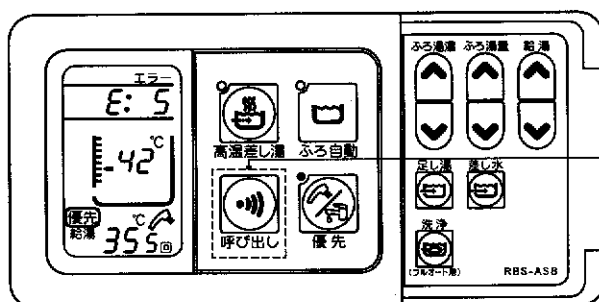
1. メインリモコンで解除するとき



操作手順

1. 『音量』ボタンを3秒間押し続けます
ボタンを長押しするとエラーの表示が消灯し、現在時刻に戻ります。
2. 操作が終わったら必ずふたを閉めます

2. 浴室リモコンで解除するとき



手順

1. 『呼び出し』ボタンを3秒間押し続けます
ボタンを長押しするとエラーの表示が消灯し、現在時刻に戻ります。

このようなときには 修理を依頼される前につぎのことを点検してください。

症 状	点 検 す る と こ ろ	直 し か た
お湯が出ない。 お湯の出が悪い。	● 給水圧が低いんですか。 ● 専用止水せんは開いていますか。	● 水圧の確認を水道局へ依頼する。 ● 閉じていたら、開いてください。
	● 断水ではありませんか。	● 水道局へ問い合わせてください。 (断水が終わるまで待ってください)
	● 減圧弁のストレーナー部がつまっていませんか。	● 30ページの「ストレーナーの掃除」によりお手入を依頼してください。
	● 配管部分が凍結していませんか。	● お買いあげの販売店にご相談ください。
お湯が沸かない。	● 配線用遮断器が「切(OFF)」になっていませんか。 ● 漏電遮断器のレバーが「切(OFF)」になっていませんか。 ※必ず2つとも(560Lは3つ)「入」にしてください。	● 「切(OFF)」になっているときは、「入(ON)」にしてください。 ※2度、3度と「切(OFF)」になる場合は故障のおそれがありますので、お買いあげの販売店にご相談ください。
お湯がぬるい。 お湯が足りない。	● 湯温切替は適当ですか。	● 上のランクへ切替えてください。 (例えば 自動 → 最高)
	● 深夜電力の通電中にお湯をたくさん使用しませんでしたか。	● 翌日までお待ちください。
	● いつもにくらべてお湯をたくさん使用しませんでしたか。	
	● タンクへの給水温度が15℃未満ではありませんか。	● 湯温切替 最高 のとき、お湯がなく、水温が15℃未満のときは90℃まで沸き上がりません。
	● 逃し弁の逃し管から昼間お湯が流れていませんか。 〔追焚き中は昼間でも逃し管から膨張水が排水されます。〕	● 29ページの「逃し弁の動作確認を」により、逃し弁の動作確認をしてください。 ● お湯が止まらないときは、逃し弁を交換してください。
濁ったお湯が出る。	● 近くで断水や水道工事はありませんでしたか。	● 水がきれいになったのを確認してから電気温水器をお使いください。 31ページの「断水・近くで水道工事が行われるとき」をご覧ください。
	● タンク内の掃除をしていますか。	● 31ページの「タンク内の掃除を」によりタンク内の掃除をしてください。

エ
コ
ノ
リ
ョ
ウ
な
と
き
に
は

事業者様へのご案内

『労働安全衛生法施行令(安衛法)令』改正について

1998年12月、『労働安全衛生法施行令』(以下安衛法)が改正され、電気温水器のタンク内圧が従来の『100kPa以下』から『200kPa以下』へと緩和され、高圧力型電気温水器の製造販売が認可されました。

安衛法の規定において、従来の電気温水器は『簡易ボイラー』に区分されますが、高圧力型電気温水器は『小型ボイラー』に区分されます。

簡易ボイラー：安衛法適用外、事務所・一般家庭に設置できます。

設置する際には、労働基準監督署への設置届け不要・定期自主検査の義務也没有ありません。

小型ボイラー：今回の改正の対象は、伝熱面積40kW以下・水頭圧100kPaを超え200kPa以下の給湯器です。安衛法が適用になり、一般家庭に設置する場合は、簡易ボイラー同様設置届け・定期自主検査の義務はありません。ただし、事業所に設置する際には、労働基準監督署への設置届けが必要になり、定期自主検査、特別教育、事故報告も必要になります。

・取説記載対象形名：

AUF-37M1K

AUF-46M1K

AUF-56M1K

※事業所とは広く家庭用以外の用途で使用される場所を指します。ただし、同居の親族のみが使用する事業所は適用から外れます。

安全にお使いいただくために、必ずお読みになってから次の4つの項目を実施してください。なお、届出は事業者様が行うことになっています。

●設置報告

事業者様は高圧力型電気温水器を設置するとき、所轄労働基準監督署長に設置報告書を提出することが義務づけられています。

●定期自主検査

事業者様は高圧力型電気温水器の取扱いの業務に労働者をつかせるときは安全のために定期自主検査を実施することが義務づけられています。

●特別教育

事業者様は高圧力型電気温水器の取扱いの業務に労働者をつかせるときは安全のため特別教育を実施することが義務づけられています。

●事故報告

高圧力型電気温水器の事故等が発生したとき、事業者様は事故報告書を所轄労働基準監督署長に提出することが義務づけられています。

事業所設置の際の規定事項

設置報告

■適用法令→ボイラー及び圧力容器安全規則第91条

小型温水ボイラーを設置したときは、設置場所付近の状況や当該ボイラーが構造規格に適合しているかどうかを確認する必要があるので事業者は、小型ボイラー設置報告書に構造図^{※1}及び小型ボイラー明細書^{※1}並びに小型ボイラーの設置場所の周囲の状況を示す図面^{※2}を添えて、所轄労働基準監督署長に提出してください。

小型ボイラーを同一事業場内で移転した場合には、新たな「設置」があったものとみなされ、小型ボイラー設置報告書の提出が必要になります。

※1 同梱されている明細書・構造図を使用して設置届けを行なってください。

※2 事業所内での小型温水ボイラーの設置位置を記載した地図を書いてください。

定期自主検査

■適用法令→ボイラー及び圧力容器安全規則第94条

事業者様は小型温水ボイラーの使用を開始した後、1年ごとに1回、定期的に次の項目について自主検査を行ってください。

本体	・製品本体からの漏れの有無 ・逃し弁の動作状態および漏れの有無 ・漏電遮断器の動作状況 ・タンクの手入れ
配管	・損傷と漏れの有無

検査方法の詳細は、取扱説明書の（29～31ページ）「安全点検、お手入れのしかた」を参照してください。

なお、自主検査を行なった後は、検査結果を記録用紙に記入し、3年間保存してください。

特別教育

■適用法令→ボイラー及び圧力容器安全規則第92条

事業者様は小型温水ボイラーの取扱い業務に労働者をつかせるときは、当該労働者に対し、安全のための特別の教育を行なってください。

特別教育の科目

- ① ボイラーの構造に関する知識
- ② ボイラーの付属品に関する知識
- ③ 関係法令
- ④ 小型ボイラーの運転及び保守
- ⑤ 小型ボイラーの点検

事業者様は、特別教育を行ったときは、当該特別教育の受講者、科目等の記録を作成して、これを3年間保存してください。なお特別教育の科目の全部又は一部について十分な知識及び技能を有していると認められる労働者は、当該科目についての特別教育を省略することができます。

同梱の取扱説明書を使用して、製品の取扱い説明を行なってください。

事故報告

■適用法令→労働安全衛生規則第96条

事業者様は、小型ボイラーの破裂の事故などが発生したときは遅滞なく、様式第22号による報告書を所轄労働基準監督署長に提出してください。

関係法令

(1) ボイラー及び圧力容器安全規則

設置報告

- 第91条 1 事業者は、小型ボイラーを設置したときは、遅滞なく、小型ボイラー設置報告書(様式第26号)に機械等 検定規則第1条第1項第1号の規定による構造図及び同項第2号の規定による小型ボイラー明細書(同規則第4条の合格の印が押されているものに限る。)並びに当該小型ボイラーの設置場所の周囲の状況を示す図面を添えて、所轄労働基準監督署長に提出しなければならない。

定期自主検査

- 第94条 1 事業者は、小型ボイラー又は小型圧力容器について、その使用を開始した後、1年以内ごとに1回、定期に、次の事項について自主検査を行わなければならない。ただし、1年をこえる期間使用しない小型ボイラー又は小型圧力容器の当該使用しない期間においては、この限りではない。
- (1) 小型ボイラーにあつては、ボイラー本体、燃焼装置、自動制御装置及び付属品の損傷又は異常の有無
 - (2) 小型圧力容器にあつては、本体、ふたの締付けボルト、管及び弁の損傷又は摩耗の有無
- 2 事業者は、前項ただし書の小型ボイラー又は小型圧力容器については、その使用を再び開始する際に、同項各号に掲げる事項について自主検査を行わなければならない。
- 3 事業者は、前2項の自主検査を行なったときは、その結果を記録し、これを3年間保存しなければならない。

特別教育

- 第92条 1 事業者は、小型ボイラーの取扱いの業務に労働者をつかせるときは、当該労働者に対し、当該業務に関する安全のための特別の教育を行わなければならない。
- 2 前項の特別の教育は、次の科目について行なうものとする。
- 1 ボイラーの構造に関する知識
 - 2 ボイラーの附属品に関する知識
 - 3 燃料及び燃焼に関する知識
 - 4 関係法令
 - 5 小型ボイラーの運転及び保守
 - 6 小型ボイラーの点検
- 3 安衛則第37条及び第38条並びに前2項に定めるもののほか、第1項の特別の教育の実施について必要な事項は、労働大臣が定める。

(2) 労働安全衛生規則

事故報告

- 第96条 1 事業者は、次の場合は、遅滞なく、様式第22号による報告書を所轄労働基準監督署長に提出しなければならない。
- (1～2略)
- 3 小型ボイラー、令第1条第5号の第一種圧力容器及び同条7号の第二種圧力容器の破裂の事故が発生したとき
- (以下略)

高圧力型電気温水器(小型温水ボイラー)に適用される法令として以下のものがあります。

- 労働安全衛生法(昭和47年法律第57号)
- 労働安全衛生法施行令(昭和47年政令第318号)
- 労働安全衛生規則(昭和47年労働省令第32号)
- ボイラー及び圧力容器安全規則(昭和47年労働省令第33号)

仕様 (フルオート)

形 名		AUF-37M1K	AUF-46M1K	AUF-56M1K
項 目		高圧力型電気温水器		
		防 雨 形		
		マイコン節電タイプ		
適応料金制度		時間帯別電灯/深夜電力 (通電制御) 切替式		
タンク容量		370L	460L	560L
定 格	温 水 器	単相200V-4.4kW	単相200V-5.4kW	単相200V-6.4kW
	保 温	単相200V-1.0kW		
	ポ ンプ	単相200V-95W (50Hz) / 125W (60Hz)		
	制 御	単相200V-7W		
	周 波 数	50/60Hz共用		
タンク沸上り温度		自動: 約75~90℃ (水温により可変) 最高: 約90℃		
給 湯 温 度		30℃~48℃ (1℃刻み19段階)、50℃、60℃		
質 量(満 水 時)		72kg(442kg)	81kg(541kg)	91kg(651kg)
形 状		角形配管内蔵 (減圧弁・逃し弁・風呂給湯機能内蔵)		
外形寸法	幅	700mm	700mm	700mm
	奥 行 き	700mm	800mm	800mm
	高 さ	1800mm	1800mm	2100mm
安 全 装 置		自動温度調節器・温度過昇防止器・漏電遮断器・過圧防止弁・異常過圧防止・フローズイッチ		
配 管 口 径		給水口・給湯口・排水口: R3/4 (おねじ) 給湯口 (ふろ) R 1/2		
配 管 方 式		減圧弁方式 (2次設定圧力: 150kPa)		
ふ ろ 給 湯 機 能	自動湯はり	湯はり温度設定: 35~48℃ (1℃刻み14段階)		
		湯はり水位設定: 4cm刻み8段階・お好み		
	自動保温	自動湯はり開始から設定した自動運転時間 [0~12時間(初期設定6時間)] の間、設定温度で保温する		
	自動足し湯	自動湯はり開始から設定した自動運転時間 [0~12時間(初期設定6時間)] の間、設定水位まで足し湯する		
	高温差し湯	60℃又は80℃の高温の湯で浴槽温度を約1.5℃上昇するまで差し湯する		
	足 し 湯	設定温度の湯を約20L足し湯する		
	差 し 水	30℃の湯で浴槽温度を約1℃低下するまで差し水する		
洗 浄		約2分間ポンプ循環後、約14L・30℃の湯にて洗浄する		
浴 槽 の 目 安		120~450L		
用 途		セントラル給湯		
		2~3人家族用	3~4人家族用	4~5人家族用
メインリモコン	操 作	ふろ自動・タンク湯温調節・タンク沸増し・タンク湯温・沸き上げ停止日数予約 湯はり予約・現在時刻合わせ・音量調節・給湯温度		
	表 示	電源・沸上げ中・湯切れ・エラー・優先・給湯・高温・タンク湯温表示・湯温設定(自動・最高)・沸上げ停止日数・現在時刻・エラーコード・電力制度(深夜電力・時間帯別)・沸増し(全量・おまかせ)・残湯量 (60L・120L・180L)・ふろ自動ランプ・給湯温度表示・湯はり予約		
浴室リモコン	操 作	ふろ自動・高温差し湯・呼び出し・ふろ湯温・ふろ湯量・給湯温度・足し湯・差し水・洗浄・優先		
	表 示	エラー・湯はり温度・湯はり量・現在時刻・エラーコード・高温差し湯中・湯はり水位・お好み・保温・洗浄・湯はり矢印・優先・給湯・高温・給湯温度・シャワー回数・高温差し湯ランプ・ふろ自動ランプ・優先ランプ・湯はり予約		

仕様
事業者様へのご案内

保証とアフターサービス

- 1 **保証について**
必ず「販売店（工事店）」「据付日」などをご確認のうえ保証内容をよくお読みいただき大切に保存してください。
- 2 **保証内容について**
 - 保証期間は据付日から2年間です。（ただし、本体ヒーターは3年間・タンクは5年間です）
 - 正常なご使用状態で、この期間内に万一故障が生じた場合は、保証書の記載事項にもとづき「無償修理」いたします。
 - 無償期間経過後の故障修理については、修理によって機能が維持できる場合、有料で修理いたします。
- 3 **点検と修理について**
 - 少しでもご不審の点がありましたら、販売店または当社指定のサービス店に点検・修理を依頼してください。
 - 本品をより長くご使用いただくため、据付後、定期的な点検をご依頼ください。
- 4 **補修用部品の最低保有期間について**
 - 当社はこの電気温水器の補修用性能部品を製造打切後最低7年間（BL品は10年）保有しています。なお補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 5 **部品の交換時期のめやす**
 - 温水器の部品の寿命は、沸き上げ温度、水質など使用する条件によってかわりますが、一般的な交換時期のめやすを参考にしてください。

部品名	補修期間のめやす	補修方法	補修の必要性
ヒーター	5～8年	交換	通電時間や水質によって性能が低下することがあります。
フランジパッキン	5～8年	交換	長期間使用すると、ゴムの弾性が減少しシール性がなくなったりゆるんだりします。また弁類は水中のスケールによって水もれしたり動かなくなったりすることがあります。
逃し弁	3～5年	交換	
減圧弁	5～8年	交換	
温度過昇防止器	5～8年	交換	長期間の使用により、金属疲労が生じ接触部が損耗することがあります。
温度調節器	5～8年	交換	
電磁接触器（リレー）	5～8年	交換	
タンクの過圧防止弁	3～5年	交換	水中のスケールやゴミが付着し水もれしたり動かなくなったりすることがあります。
自動給湯部品 （循環ポンプ・電動弁類等）	5～8年	交換	長期間使用すると、水中のスケールによって水もれしたり動かなくなったりすることがあります。
配管保温材	3～5年	補修	太陽の紫外線によって劣化することがあります。

積水化学工業株式会社

住設事業部 大阪市北区西天満2-4-4 〒530-8565

仙台住宅資材営業所	仙台市青葉区中央4-6-1（住友生命仙台中央ビル） 〒980-6060 ☎022(267)3301	神戸営業所	神戸市中央区御幸通7-1-15（三宮ビル南館） 〒651-0087 ☎078(251)6639
東京住宅資材営業所	東京都港区虎ノ門2-3-17（虎ノ門2丁目タワー） 〒105-8450 ☎03(5521)0653	広島住宅資材営業所	広島市中区鉄砲町7-18（東芝フコク生命ビル） 〒730-0017 ☎082(224)6261
関東住宅資材営業所	大宮市桜木町1-7-5（ソニックシティビル） 〒331-0852 ☎048(646)0165	岡山営業所	岡山市中山下1-8-45（NTTクレド岡山ビル） 〒700-0821 ☎086(222)0651
横浜住宅資材営業所	横浜市西区北幸1-4-1（天理ビル） 〒220-0004 ☎045(311)6667	松江営業所	松江市朝日町477-17（明治生命松江駅前ビル） 〒690-0003 ☎0852(26)6800
新潟営業所	新潟市東大通1-2-23（北陸ビル） 〒950-0087 ☎025(244)9261	山口営業所	山口県吉敷郡小郡町高砂町2-7（朝日生命小郡ビル） 〒754-0014 ☎083(972)6877
長野営業所	長野市南石堂町1277-2（長栄第2ビル） 〒380-0824 ☎026(226)6510	高松支店	高松市寿町1-3-2（第一生命ビル） 〒760-0023 ☎087(822)1011
松本営業所	松本市中央1-4-20（日本生命松本駅前ビル） 〒390-0811 ☎0263(33)3931	松山営業所	松山市千舟町4-5-4（住友生命松山千舟町ビル） 〒790-0011 ☎089(931)3261
静岡営業所	静岡市南町18-1（サウスポット静岡） 〒422-8067 ☎054(289)6052	福岡住宅資材営業所	福岡市中央区天神1-1-1（アクロス福岡） 〒810-0001 ☎092(725)9280
名古屋住宅資材営業所	名古屋市中村区名駅1-1-4（JRセントラルクワース） 〒450-6115 ☎052(583)6115	大分営業所	大分市都町1-2-19（大分都町第一生命ビル） 〒870-0034 ☎097(536)4131
大阪住宅資材営業所	大阪市北区西天満2-4-4（堂島関電ビル） 〒530-8565 ☎06(6365)4301	宮崎営業所	宮崎市吉村町久保田922-1 〒880-0841 ☎0985(22)8115
北陸支店	金沢市本町2-15-1（ボルテ金沢ビル） 〒920-0853 ☎076(231)4461	南九州営業所	鹿児島市鴨池新町6-6（鴨池南国ビル） 〒890-0064 ☎099(258)4511
京都営業所	京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉈町20番地（四条烏丸FSスクエア） 〒600-8008 ☎075(211)8463		